

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	永町 友恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	聖書を学ぶことが初めての学生にも、分かりやすくなるように準備した。またインターネットの教材も取り入れながら、視覚的に説明するために、YouTubeなどの教材も積極的に取り入れた。また教会音楽を多く取り入れ聴覚的にもキリスト教会の雰囲気を味わえるように工夫し、色々なジャンルの教会音楽を紹介した。さらに聖書の言葉を信じた、キリスト者の人生からも学べるように何人かの人物を紹介して学んでいただきました。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	大学の講義という自覚を持たせつつ、福祉の考えの根拠の一つは聖書だとのモチベーションを与えました。課題提出の時に質問した学生に、次講義の場で返答しました。また学生たちが共通して誤解している場合も同様に回答しました。またキリスト教、そして聖書の入門的な位置づけの講義ですので、講義だけで完結するように講義プログラムを組み立てた。今後はさらに図書館に多くのキリスト教関係の書物があることの紹介や、さらなる学びの方向性についてもアピールできたらと思います。最後にキリスト教会でリアルな礼拝の体験をできたことは素晴らしいのではないでしょうか。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この講義の目的は、実際に聖書を手に取り、読むことです。そして聖書の全体像をつかんでもらう。さらに、西南女学院大学の創立精神がこの聖書の中にあることを知ってもらうことです。後期は新聖書を学びましたので、キリストの教えや行動、また弟子たちの教えや行動を学びました。さらに聖書の人物はどのような人生を経験したのか。また聖書の教えが世界にどのように影響を与えたかを知っていただきました。しかし聖書にあまり興味のない学生がいたことは事実です。その方々に色々なジャンルの教会音楽や聖書を題材とした絵画を通してキリスト教に興味を持って頂けるようにアピールしました。また学生たちが不安を持つ中で、講義の最初に、祈って心休まる体験もできたと思います。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	私自身の1年目はオンラインだけの講義であり、2年目は対面初年度の講義でした。今年は3年目でした。2年目同様に事前に、昨年度の反省を込めて講義ノートを準備し、講義前に配りました。この講義は知的面だけの学びではないので、実際に教会の礼拝に参加することや、大学のチャペルをリアルに参加することができたので、より講義の内容が理解できたのではないかと思います。講義のまとめたものを、視覚的な教材も用いて見せられたことは良かったと思います。また最後の講義では学生たちによるプレゼンテーションを何人かにして頂き、能動的に聖書に関する発表をしていただきました。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2023年度後期は新型コロナウイルスの影響が薄れ、学生たちが教会の礼拝に実際に参加できました。またマスクで顔を隠すことなく学生たちに、神、イエスさま、そして聖書のすばらしさを講義で話すことができました。またキリスト者の社会的貢献から学び、弱さを覚える方々がキリストにあって生き生きと生活した姿をお知らせすることもできました。また福祉の精神がキリスト教の精神とも共通性があることも学んでいただけたと思います。そして聖書中の女性にスポットを当て、女子大の学生に聖書登場人物に対して近さを感じていただきました。さらにこのキリスト教の信仰で、この西南女学院大学が創立されたことを分かち合うことができました。しかし大学の講義ですから、さらなるキリスト教学、聖書の学びに進めるよう、学生たちに紹介していきたいと思います。課題はグループワークや教会以外の課外活動ができないかを模索していきたいと思っています。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と文化	2	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、キリスト教学で学んだ知識をもとにキリスト教に関する視野を広げていく内容である。キリスト教の歴史を概観した後、聖書を土台とした芸術作品の鑑賞、キリスト教音楽や文学作品を味わうことによって、キリスト教を土台とした文化について視野を広げた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関して、また到達度自己評価の平均値の平均は3.6ポイントであった。トータルの成績の平均値は約80%以上。聖書を土台として西洋の文学作品・芸術作品に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。また、チャペルレポートの提出やクリスマス礼拝への参加は95%以上であり、コメントカードの内容と感想文の内容から、チャペルや教会訪問を通し、下記のキリスト教の価値観を養うことができる、という行動目標も達成された。 1. 著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察できる。 2. キリスト教に関連するテーマを調査し発表を行い、教養を養うことができる。 3. チャペルや教会訪問を重ねることを通し、キリスト教の価値観を養うことができる。☑					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はキリスト教学を終え、更にキリスト教について深めたい学生が中心に受講している。本学の要となる聖書の内容を学ぶキリスト教学の学びを踏まえ、展開している。聖書の学びを前提としての発展的な学びであり、文学や芸術に関して幅広く扱っているが、全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本講義は、キリスト教の学びをより深めたい学生の興味に応じることが重要である。授業の質評価の平均は4ポイントであったが、引き続き、学生たちが主体的に意見交換ができるような進め方を工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義としては質評価の結果に表れているように妥当であったと言える。今後は他学科の受講生との多角的な意見交換ができるような方法を工夫したい。8コマという短い期間の中で知識を伝えながら協働学習をすることは難しいので、今後、新カリキュラムに移行する際には、グループでの発表を行う機会を設けることができればと考えている。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	回答者数は60名（回答率75.9%）であった。学生の受講動機は「必修科目である」が100%であった。このほか、「単位数を確保する」が10.0%、「資格取得に必要である」が6.7%、「関心のある内容である」が3.3%であった。 この科目は、全体での共通の講義のほか、教員のオムニバス形式(6回1クールで行うので、実際に学生が受講する教員は2名)で行う科目であることから、各教員の専門性を重視しつつ、「初年次セミナーⅡ」で学んだ「調べる」「聞く」「読む」「書く」ための技能に加えて、「発表する」「討論する」ための技能を身につけることを目的として授業を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価について、理想的レベル（90点以上）に達した学生は30名いた一方、一昨年度、昨年度に引き続き再試験対象者が2名出たほか、出席数不足により単位取得できなかった学生が3名と、今年度も意欲的な学生と意欲の低い学生の格差が目についた。 到達度自己評価をみると、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が4.3、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要な技術を身につけることができた」の平均値がいずれも4.1であるほか、その他の項目の平均値も3.7～4.0を示していた。昨年度と比べて、全体的に数値はやや低下しているが、理想的レベルに達している学生は例年よりやや多いことから、本年度も本科目の教育目標は概ね達成されたといえよう。 学習量については、授業の準備を1回も行わなかった学生が21名、1回行った学生は8名、2，3回行った学生は15名、4,5回行った学生は11名、6回行った学生は5名であった。全体的に「初年次セミナーⅡ」より減少しているうえ、学習している学生とそうでない学生との二極化の傾向がみられる。また、図書館の図書、雑誌を利用した学生は16名、学術データベースを利用した学生は8名、インターネットを利用した学生は21名であった。いずれも昨年度より減少しており、とりわけ学術データベースを利用した学生が大幅に減少している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「総合人間科学科目」であり、大学における学習の技能を身につけるための科目である。当然福祉の専門領域を学ぶための技能を身につけるための科目でもあり、内容的には妥当であると考える。 ②DP行動目標から見ると、すべてのDPの基礎となる内容を網羅しているともいえる。 よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、の平均値が4.5だったほか、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値はともに4.4、「説明は理解しやすいものであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値がいずれも4.3であった。これらの数値については、昨年度とほぼ同様であり、前期の「初年次セミナーI」と比べてやや上昇している。 学習量について、授業の復習を全くしなかった学生は25名、授業の課題以外の学習に取り組んでいない学生は48名と、昨年度より増加している。授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は12名であった。具体的に取り組んだ学習は、「本を読んだ」、「分からない単語を調べた」、「課題で出されたことの内容より深いことについて調べたりした」、「自主学習」、などが挙げられていたが、これらは授業の課題と密接に関連する学習でもある。他方、授業の課題以外の学習に取り組まなかった理由については、「課題で手一杯だった」との意見が多く見られたほか、「授業中の内容で十分理解できた」、「他の講義の課題で手一杯だったため」、「取り組むところがわからなかった」との意見がみられた。学習の技能については、振り返り、繰り返しながら徐々に身につくものでもあり、学生が積極的な学習姿勢をとるための動機づけが今後の課題であると言えよう。 学生の意見については、「15回ありがとうございました」とのコメントのほかは、特になかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	この科目では、全学共通の総合人間科学科目として、「調べる」「聞く」「読む」「書く」技能の習得に重点を置いた「初年次セミナーI」を基礎として、研究倫理のほか、さらに「発表する」「討論する」技能の習得を目指したが、当初の目標はおおむね達成できたと言えよう。次年度以降も「初年次セミナーI」「初年次セミナーII」を通じて、専門教育が本格化する2年次以降の学習をより深めるため、大学で学ぶための基礎的な知識、技能を身に付けることを目指す。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後は反省点や次回に向けての改善点（課題）などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。 ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	履修者41名中、1名（2.4％）が履修を放棄した。履修者40名の最終的な成績の平均値は81.9（±12.1）点であった。成績分布別にみると、90点以上が15名（37.5％）、89～80点が9名（22.5％）、79～70点が9名（22.5％）、69～60点が6名（15.0％）であり、60点未満が1名（2.5％）であった。多くの学生が標準的レベルに達しており、60.0％の学生は理想的レベルに達していた。 授業評価アンケートに回答した30名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が13名（43.3％）、「わりにそうだと思う」が11名（36.7％）、「まあまあそうだと思う」が6名と（20.0％）であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.2）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が10名（33.3％）と7名（23.3％）、「わりにそうだと思う」が13名（43.3％）と8名（26.7％）、「まあまあだと思う」が6名（20.0％）と9名（30.0％）、「少しそうでないと思う」が1名（3.3％）と3名（10.0％）、「全くそうでない」が3名（質問項目3のみ10.0％）であり、多くの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1と3.4）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が13名（43.3％）、「わりにそうだと思う」が4名（13.3％）、「まあまあだと思う」が8名（26.7％）、「少しそうでないと思う」が4名（13.3％）、「全くそうでない」が1名（3.3％）であり、多くの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.8）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学・全学共通科目の「女性と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解（DP1）」、「態度（DP4）」、および「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.7～4.5であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外で日々意識的に歩いたり、トレーニングなどを行っている者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。中学高校までの歴史の授業で得た知識を反芻することが授業準備になることを確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。最後の授業の総復習をして、ジェンダーの視点でみる近代日本の女性の位置づけを確認した。特に重要なポイントについては、各授業の課題を各自で振り返ることにより理解を深めるよう勧めた。授業評価では、授業後にネットで調べて考えた学生も存在した。試験の結果からみると、ポイントはおおむね理解している層が厚いものの理解不足の学生も一定数いることが確認された。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、ネットで取得できる最新のデータを示した。また、テレビや映画、雑誌で描かれた女性像もネット動画で視聴できるものを活用し、時代背景を映像で確認するとともにジェンダーの視点で製作者の意図を考えさせた。おおむね内容的妥当性は認められるが、当事者性を持って考えるまでに至らない一部の学生は存在した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、インターネット上の図表や動画も使用した。複数学科で受講しており人数が多いため、双方向のやりとりが困難であることが昨年度の課題であった。今年度は、適宜、前回の授業課題レポートを取り上げ、コメントする時間をもった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	女性史は範囲が広いため、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち根深い固定的性別役割分担意識のその原因である家父長制であることについて考えさせることができ、実感を伴いながら知識の理解を深められたと評価できる。今後は、日本の家父長制が根付いた経緯を古代・中世までさかのぼりつつ、世界史的な家父長制の歴史にも触れてその普遍性への理解を深め、現在の国際的なジェンダー平等の現状から日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	文学という学問がなぜ我々に必要なのか、という問いかけに始まり、文学は実学であることの意義、そして学生たちが進もうとするそれぞれの専門との関りについて重ねて鑑み、自身のアイデンティティと切り離せないものであることをまずは、学ぶ。そういったことをベースにして小説、物語、歴史書、古典、映画を見て感動することは即ち自分自身の人生を客観的に眺めていることと同一線上にあるゆえに、人間が生きてゆくための原動力となる探求心や想像力、感動する心を育てるエキスを満ちたことを基軸に据えて、文学を通して自身の生きてきた道をフィードバックすることにより大切な知恵を取得することを主眼とする。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	総合評価としては80パーセントから85パーセントの進歩が見られた。其の内訳を説明するならば講義終了後に提出する課題に対しての解答が、講義前の課題に対する回答よりはるかに上回っているということの評価である。大方の15回の講義の内容は習得できているとみなしている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の位置づけから見た妥当性については、80パーセントは活かされていると確信する。この数字を具体的に説明するならば、なにゆえに文学を学ぶかという問題提起がそれぞれの学生に育まれていることが感想文を通して表明出来たことのパーセンテージである。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生自らの考え方等々を他の学生たちと分かち合う必要がある。したがってグループで話し合う機会を設けたいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況の総括的評価としては80パーセントは達成しているので、さらなる向上を目指したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は43名（回答率63.2%）であった。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」55.8%、「必修科目である」32.6%、「単位数を確保する」23.3%、「関心のある内容である」18.6%であった。教職必修科目であるが、今年度も福祉学科の1年生の多くがこの科目を受講した。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年度の成績評価は昨年度と同様に、授業中の確認テスト、コメントおよび後期終了時のレポートを用いた。素点の平均点は73.6点であった。不可と評価した者は5名（ほか出席数不足の学生が5名）、理想的レベル（90点以上）に達した者は4名であった。 学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値がともに4.2、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値がいずれも4.0であった。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」を除く他の項目の平均値は3.3-3.7の間にあり、全体的に昨年度より低下している。とりわけ「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.6にとどまったことは少し残念である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目であることに加えて、シラバスにも明記してある通り、福祉専門科目である「権利擁護論」で学ぶ内容の基礎となる。加えて将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。 よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.5、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は4.4、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.1、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が4.0であった。いずれも昨年度より幾分低下している。 他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は28名、復習を全くしなかった学生は21名と、昨年度より大幅に増加している。また、授業の課題以外の学習に取り組まなかった学生は32名、取り組んだ学生は11名であった。授業以外の学習として「授業で分からないところがあったため、インターネットを使って調べた」、「重要語句をまとめたり、実際の事例について調べたりした」、「ニュースを読んだ」などの記述があった。他方、授業以外に学習していない理由として「授業で十分だと思った」との回答が多く、そのほか「何をすればいいかわからなかった」、「学習時間が取れなかった」、「ほかの講義の課題で追われていたため」などの記述が見られた。 学生の意見については、「とても分かりやすかった。高校の時より詳しい内容を知ることが出来とてもためになった授業でした」、「分かりやすく毎週楽しみでした」、など、授業全般について評価するコメントが見られたが、「少し早口でかつかんでいたところが多かったため内容をなかなか聞き取ることが出来ませんでした」とのコメントもあった。講義時に話すスピードについて、改善したいとする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考えており、特に改善すべき課題はないとする。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	高木 駿

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	webの質問アプリケーションなどを使い双方向のやりとができるように心がけた。また、資料については、文字を入れすぎず、シンプルで分かりやすいものを心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」という回答が多かったので、「やや達成された」という項目を選択した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムを設定する立場、あるいは、カリキュラムマップを作成する立場にないので、適切なことは言えない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	アンケートにあるように目標達成については「まあまあそうだと思う」以上の回答が大部分を占めているので、基本的にはよい授業ができたと思う。次年度の授業がないため改善等については回答できない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的評価については、既述のとおり、基本的によい授業ができたということになる。次年度の授業がないため課題については回答できない。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であるが、科目名自体は比較文化、国際関係、社会学と多様な内容を含んでいる。そのため本科目は、専門外の学科の学生にとっては具体的に何を学ぶかをイメージしにくいことが課題として挙げられる。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」を動機とする回答が観光文化学科66.7%、福祉学科60%、英語学科に至っては20%となっており、どの学科も関心意欲がそれほど高いとは言い難い。このことは開講時点である程度予想がついていたため、授業では彼らの関心を高めるため、毎回の授業内容に関わる様々な「確認チェック」に答える作業を行ってもらった。 ②本科目の授業では専門的な用語が頻出し、授業内容の理解が困難となる学生が出るのが想定された。そこで毎回の授業の終りに授業内容のまとめ問題を実施し、授業全体の復習を行った。 ③比較文化に関しては授業の内容だけではイメージしにくいいため、受講者達には「差別」そして「異文化対立」に関連する具体的な動画を見せた。さらにそれぞれの動画内容について学生自身の考えをレポート形式で書いてもらった。 ④授業では受講者にテキストを購入してもらい、授業の前に関連個所の予習をしてもらった。特にテキストの中にある日本の学校制度と徒弟制度の意義に関する論文を読ませ、その内容に対する賛否と理由を書かせ提出させた。小テストに関しては昨年度の課題として挙げた評価の明確化のため、採点后に点数を表記して返却し、質問のある学生に関しては個別に対応を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目受講者の最終的な成績の平均値は約84点であった。昨年度の平均値が80点であり、平均値の上昇が見られた。再試験対象となる学生は数名いたが、全員が標準的なレベルに達したと言える。 学生の到達度自己評価に関するアンケートでは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という回答が4学科平均4.0以上であった。これに関しては本試験前に知識理解を高める小テストを2回実施したことが結果につながったと考えられる。学習量の評価では授業前の予習及び復習に30分以上かけたと回答した学生の割合がどの科目も半数以上であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 「知識理解」に関する達成度は3学科平均3.6であった。昨年度の平均値4.3よりは下がったが、総合成績の平均点は昨年度より上昇したため、成績評価および到達度自己評価の点では達成されたといえる。態度についても、レポート等の課題提出が遅れる学生はほとんどなく、レポート内容自体も一定の基準値以下はいなかったことから、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、「知識理解」に関する達成度の平均値が例年より若干下がったが、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価においては、昨年度の課題であった「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の回答の平均値が3学科平均4.3以上と高い評価が得られた。一方で、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の回答については3学科全体の平均値が3.2と低かった。科目の内容的にグループ討論等を行う事が難しいが、内容に則したQ&Aやアンケートの実施を毎回の授業で行うことで改善の余地はあると思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	前々年度からの課題である予習、復習含めた授業時間の向上、前年度の課題である小テスト評価の明確化については、いずれも昨年度より高い数値の回答が得られた。小テストの実施と事前予告は授業時間の向上に非常に効果的であり、次年度も引き続き行っていきたい。 課題としては予習、復習時間のさらなる向上が挙げられる。この点に関しては授業の中で行っている小テストの範囲を事前に予告することで、学生にこれまでの授業内容を積極的に復習してもらう。またレポート等の課題についても、今年度は1回目の講義にて学生たちに「レポート・論文の書き方」という表題で講義を行う予定である。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、地域や国際社会の課題について、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では若干名の学生が「全くそうでないと思う」または「少しそうでないと思う」と回答しているが、大半の学生は肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだこととこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年前期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、ほとんどの学生が全ての項目について肯定的な回答をしているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目について、3名の学生が「少しそうではないと思う」と回答している。200名を超える受講生であったため、学生が発言する機会を作ることが難しく、アプリ等を使って学生が自分の考え等を授業中に表明できるように工夫したが、不十分であると感じる学生もいるのかもしれない。受講生が多いので、授業中に質問しにくいことが考えられたので、Googleフォームで質問を受け付けられるようにし、次の授業で解答するようにしたり、メール等での質問を受け付けその都度対応していたが、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について2名の学生が「少しそうではないと思う」と回答している。さまざまな形で常時質問を受け付けていることを毎回提示したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。ICT等の活用はある程度効果が出てきていると思うが、不十分な点もあるので、活用方法について研究したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、保健福祉学部の3学科（看護学科、福祉学科、栄養学科）による合同授業である。受講動機を見ると、「単位数を確保する」（78.3%）が一番多く、次いで「関心のある内容である」（52.2%）となっており、学習への動機はやや低いことが伺える。授業内容は、アクティブ高齢者に対する支援について、講義（3コマ）とPBL（事例検討5コマ）を行うものであり、特にPBLは3学科混成によるグループワークを実施している。 授業では、介護保険制度の概要について教授し、他学科の学生も内容理解が深まるよう、解説方法や提示資料を工夫した。また、PBLでは5つの班を担当し、ディスカッションや合意形成などが円滑にできるよう側面からサポートした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成度について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ても、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う39.1%、かなりそうだと思う43.5%）となっており、目標を達成できたと考える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う34.8%、かなりそうだと思う43.5%）であり、目標をある程度達成できたとと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う34.8%、かなりそうだと思う34.8%）であり、目標をある程度達成できたとと言える。 以上、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価結果から、本科目の教育目標は全体としてある程度達成できたと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①D P 上の位置づけ 上述の授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価の結果からも、本科目のD P 上の位置づけに問題はないと考える。 ②C P、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は保健福祉学部（3学科）の学生が各分野の専門性をもとに協働でP B Lに取り組むものであり、本科目のC Pおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの「学習量の評価」では、授業の予習と復習がともに「0回」（95.7%）となっていた。また、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」は、「していない」（82.6%）であった。本科目はP B Lがメインとなっており、学生の意欲と主体的な学習態度が特に求められ、この点では課題が残ったと言える。今後は予習・復習のポイントを具体的に提示するなどの工夫が必要と思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標はある程度達成されたが、学生の主体的な学習態度の涵養という点では課題が残った。本科目は、保健福祉学部3学科による合同授業であり、本年度の成果と課題を担当者間で十分に共有し、次年度の授業運営に臨みたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、ジェンダー平等について説明し女性のキャリア形成を考えるうえでジェンダーの視点が欠かせないことを意識づけした。2回目で、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後の課題や、期末レポートで測った。特に、期末レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。レポート課題を出す際に、この評価基準を文書で説明し、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまらないこと、社会構造と関連づけることを明確にした。ほとんどの学生が基準を達成した。ただし、社会的課題の背景にある事象への言及が不足している学生が一部存在した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義で知識を得るだけでなく、外部講師の体験談を盛り込み、労働法では招聘弁護士が自身の関わった事件から法律を解説したり過労死された方の遺族から具体的な話を伺ったり、ほかにも子育てに積極的に参画するようになった父親の行動変容の体験談、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。今年度は、学生とのやり取りも昨年度より多く取り入れて授業を進めた。各回の感想及び授業評価アンケートをみると、外部講師の話から刺激を受け、自分の関心のあるテーマでは自ら調べる学生もいた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。受講者人数が多いために個別的な対応がすべての学生とはできなかった。昨年度はより多くの学生に個人的な意見を聞くようにしたが、活発なやり取りの工夫が求められる。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践キャリアプランニング	2	後期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	※このリフレクションカードは、各学科の回答者数が少ないため、全学科を総合的にみて作成しています。 キャリア関連の科目が多く開講されているため、シラバスの作成においては、他の科目とは異なる知識を得られると感じてもらえるよう意識している。受講動機として、「単位数を確保する」の他に「関心のある内容である」も多くなっていることから、その意図は一定の学生には伝わっていると思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	アンケートの到達度自己評価が全体的に良好な結果となっており、多くの学生が目標を達成できたと感じている。 また、レポートにより成績評価を行っているが、多くの学生がこの科目で得られた知識と自分のキャリアを関連づけて考えることができていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの到達度自己評価のなかで、「（9）職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」や「（10）職業選択の参考になった」の評価が悪くないことから、キャリア科目としての目的は果たせていると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義形式の科目であるため、授業の進行において特に問題となることはなかった。多くの学生が、授業時間外の学習にはあまり時間を割いていないが、専門科目ではないため、あまり学生の負担とならない方がよいと考えており、現状で問題ないと捉えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	アンケートの評価としては全体的に悪くなかったが、例年よりも履修者数が少なかった点について、学生の興味と本科目の内容が合致しているか、次年度以降も検討を続けたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	通年	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。特にグループワークの中で事例を通して役割分担をし、実際にロールプレイングを実施することを説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体のWebでの研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとっても役に立ったや、幅広く福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目が他の項目より平均点が低かった。可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等の検討を行い、引き続き次年度以降の課題としたい。学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、昨年度に引き続き具体的に指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、ロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行った。さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めた。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答した学生が多い。また、学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。 ②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。 ③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。 リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得に課せられた精神保健福祉援助実習Ⅱ（地域実習）の事前事後指導の科目である。3年次の医療機関実習での学びを通して4年次の実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等を行いながら、地域実習に臨むことができている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	精神保健福祉援助実習Ⅱに向けた、事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉コースの総括としての実習Ⅱを通して学んだことを、事後指導の時間を多く設けて個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、及び質問の受付答える機会の提供の項目についても高得点であった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。実習事前事後指導については、よりリアリティな状況を説明していきながら、各自の実習目的を明確化することを進めていった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生が受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができたと思われる。次年度も引き続き、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神障害者地域生活支援論	4	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目ではないが、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体のWebでの研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、最終レポート、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとっても役に立ったや、幅広く地域での福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、両福祉士の国家資格を取得するための指定の科目ではないのにも関わらず、その関連性の高さから、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられた。また、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目が他の項目より平均点が低かった。可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等の検討を行い、引き続き次年度以降の課題としたい。更には、昨年度及び一昨年度も学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも工夫をしていながら、引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、引き続き具体的に指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、多くの事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めることができたと感じられる。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
認知行動療法基礎演習	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ひとの体験を認知行動モデルから理解する視点を身に着け、さらに認知行動モデルを基礎とした支援の在り方を学習することを目的とした。受講学生は認知行動モデルや認知行動療法について詳しく学習するのは初めてであることが予測されたことから、授業前半では認知行動モデルについての理解が定着するよう基礎概念の解説を時間をかけて行った。また、授業評価アンケートにおける「受講動機」では、受講学生全員が「関心のある内容である」と回答した。そのため、学生の希望進路に応じ、精神科医療だけでなく、福祉領域、教育領域などでどのように用いられているか事例を交えながら解説を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本年度の成績は平均85.6点（SD＝5.9点）であり、知識理解（DP1）および思考判断（DP2）は「達成された」と判断した。また、熱心に受講し、授業中に配布した課題についても主体的に取り組んでいたことから、関心意欲（DP3）は「達成された」と判断した。 学生自身による「到達度自己評価」においても、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことが出来た」の項目に4.7点以上がついていることから、目標が達成されたと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は保育士取得に関する選択必修科目に位置づけられている。授業内容は、精神科医療や相談援助で活用される心理療法についての解説や演習であるため、保育士と全く関連がないわけではないが、受講学生がニーズと授業内容に差が生じる可能性が考えられる。なお、本年度は子ども家庭福祉コース在籍の学生は受講しておらず、全員が福祉・養護教諭コース在籍の学生であった。 以上より、どのコースの学生が受講しても学びが深まるような工夫も必要だが、改めて保育士取得のための選択必修科目という位置づけが妥当であるかどうかは検討が必要だと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業では演習課題の提出などを度々求め、最終的な成績にも反映されることから、今後も初回のオリエンテーション時や授業の後半時に成績評価基準についての説明を丁寧に行うことを心がけたい。 また、授業評価アンケートにおける「2 到達度自己評価」において「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」はほかの項目に比べると低い結果となった。認知行動療法の考えに基づいて、相手の話を聞くロールプレイングを実施する等、実際にひととの会話や面接に活かす体験につなげていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講学生も積極的に演習に参加しており、学習効果を高められたと考えられる。引き続き本年度に実施した授業内容の工夫を継続していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
発達心理学Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機によると、本授業は、「必修科目である」10.0%、「資格取得に必要である」15.0%、「関心のある内容である」75.0%、「単位数を確保する」40.0%であった。本授業は、選択科目であるため、関心があること、単位数を確保することを目的とした学生が多く受講したと考えられる。 1年前期の「心理学と心理的支援Ⅰ」において発達心理学のいくつかの主要理論について紹介しているため、それを踏まえてさらに学生が発達心理学について理解を深めることができるように準備した。 ①本授業は発達の前期にあたる「胎児期、乳児期、幼児期、児童期」を取り扱っており、学生が経験した発達段階も含まれていることから、自分自身の経験も意識してもらいながら、理論や知識を提供するようにした。 ②胎児期、乳児期、幼児期、児童期の各時期における、運動面や認知・情動面など各領域ごとの発達の変化について、研究や理論を提示しながら説明を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	平均点は87.0点であり、80点以上の者が81.0%、70点以上の者が5.0%、60点以上の者が5.0%であった。多くの学生が標準レベルの学力を修得することができた。5.0%の学生が放棄し、5.0%の学生が教育目標を達成できなかった。 学生の到達度自己評価においても、殆どの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と答えている。特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均点は4.3点（中央値5.0）であった。 1回以上予習した学生は、55.0%であった。1回以上復習した学生は、85.0%であった。復習を重視した学生が多く見られた。 授業の課題以外に学習に取り組んでいない学生は「課題で十分だった」「授業内容で十分理解できた」とのことであった。 自発的学習に取り組んだ学生は25.0%であった。授業の課題以外の学習の取り組みとしては「試験勉強」「テキストを読む」「多くの心理学と関連づけながらノートをとる」などが自由記述にみられた。つまり、授業内容をベースに学びを深めたり広げたりしていたことが伺える。 以上、学生による授業内での十分な取り組み、予習や復習、自発的学習により、多くの学生は教育目標を達成した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は、1年前期の「心理学と心理的支援Ⅰ」において心理学の概論について触れた学生が、さらに専門性の高い「発達心理学」の領域を学ぶことができるようにと設けている。発達心理学は、社会福祉士として必要な「対象者の理解」のために基盤となる学問であり、2年前期には「発達心理学Ⅱ」として青年期以降の発達心理を学んだり、「発達アセスメント演習」にて発達の査定について学ぶために、「発達心理学Ⅰ」として児童期以前の発達心理を学ぶ時期は早い方が望ましい。1年次後期の開講は妥当であると考えられる。 学生も概ね積極的に取り組めており、授業内容としても1年次後期にふさわしい内容になっていると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	テキストに沿って進めたが、不足する情報は適宜プリントして配布した。説明には、パワーポイントを用いて、視覚的に整理され分かりやすく伝わるように工夫をしている。 授業の質評価では、「評価基準は明らかであった」の平均値は4.4、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.4、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.4であった。 毎授業終了後に小レポートの提出を求めているが、殆どの学生が授業内容を自分自身の経験や身の回りの他者から得た情報、これまでの知識等の具体的事象と適切に結び付けて考察することができており、これは授業内容の復習にもつながったのではないかと考えられる。 学生アンケートには「子どもの発達について学ぶことができた」「発達について振り返ることができた」と意見があり、授業内容への理解と関心が深まったのではないかと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成できた。 来年度も、学生がより発達心理学への興味関心がもてるよう資料やスライドに加筆修正を加えて授業を展開していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
発達臨床心理学	3	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は、臨床心理学や発達心理学、障害者心理学等の基礎知識を踏まえたうえで、発達支援について検討することを目的としている。前提知識を身に着けた学生を対象としているため、発達障害当事者の視点から障害について理解することや、そこから適切な支援の在り方について考えるといった発展的な内容を扱った。授業評価アンケートでは「関心のある内容である」と回答した人も一定数（63.6%）居り、対人援助職として具体的な支援方法を知りたいというニーズを想定し、支援方法については実際に実施しあう時間なども設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本講義の成績は、平均84.6点（標準偏差 8.3点）であった。 個々の事例を読み、これまで学習してきた基礎的な知識について、あらためて障害当事者の視点を踏まえた体験的な理解を深めることができたと考え、DP1は達成されたと評価した。 また、支援について、実習等の経験を踏まえながら実践で用いることを想定した質問をしたり、障害者の個性を踏まえどのような用い方が有効であるかを考察することができており、DP2およびDP3についても「達成された」と評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	先述のように、本講義では、発達障害児者への理解や支援の検討に関して発展的内容を扱うため、その基礎となる学習を踏まえたうえで実施されることが望ましく、開講時期は妥当であると考えられた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生自身による「到達度自己評価」の結果を見ると、学ぼうとしている専門分野における課題検討能力や判断力の獲得、学習意欲の向上はいずれも平均点が4点以上であった。そのため、学生のニーズにも合致した授業展開ができたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学習成績および授業評価アンケートの結果より、本授業における目標は達成されたものと考えられる。来年度以降も、本年度有効であった授業内容や工夫を継続して実施していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
障害者心理学	2	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義では、身体及び精神に関する様々な障害を取り上げ、個々の診断基準や障害特徴などについて解説する。授業評価アンケートにおける「受講動機」において、「関心のある内容である」と回答した学生が71.4%であったように、毎年受講学生の多くが2年次や3年次の学外実習に向けて意欲的に履修している。そのため、各障害の診断的特徴だけでなく、心理社会的支援の例についてもなるべく多く紹介するよう心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本年度の成績は平均82.5点（SD＝10.6点）であった。試験の成績，授業態度，授業時に回答を求める授業感想シートの記述内容のすべてにおいて，受講学生によって差が大きかったことから，DP1～3の全てで「やや達成された」と評価した。なお，学生自身による「到達度自己評価」においても，ほとんどの項目で「③まあそうだと思う」～「⑤かなりそうだと思う」までの間に該当者数がばらけていたことから，学生によって学習目標の達成状況が異なっていると考えた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	3年時での実習の前段階として、障害に関する専門的知識を身に着け、適切な援助の在り方について考える姿勢を培うことは重要と考えられるため、開講年次は妥当であると考えられる。また、授業の目標にDPも対応しており、設定DPも妥当と考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	個々の障害に関する診断基準及び特徴に関して解説する際には、言語的説明だけでは学生がイメージできずに理解することが難しいことが予測されたことから、適宜映像等を利用し学生の理解を促した。授業評価アンケートにおける「授業の質評価」においても「説明は理解しやすかった」の項目について平均4.3点であったことから、映像の利用は有効であったことが考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の学習目標到達度は「やや達成された」に留まったが、「授業の質評価」は例年と同様の高さを維持できたことから、来年度も引き続き、各障害に関する基本的事柄の理解が深まるように図や映像等を用いた解説を行っていきたい。また、支援についてイメージしやすいように心理社会的特徴の解説および事例の提示なども行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床心理学概論	1	後期	選択	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生は、本講義において初めて臨床心理学について本格的に学習する。そのため、授業内容としては、現在の臨床心理学領域において中心となっている心理療法や心理検査について幅広く取扱うこととした。また、受講生にとってなじみのない用語や抽象的概念について解説を行うことも多いため、具体例を挙げたり、学生の質問に答える時間を設けるなどして受講生の理解が深まるよう心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本年度の成績は平均78.6点（SD＝14.8点）であった。成績のバラツキが大きくDP1の達成状況については「どちらともいえない」と評価した。学生による「到達度自己評価」では，「（1）自分なりの目標を達成した」において「④わりにそうだと思う」「⑤かなりそうだと思う」と回答した学生と比べて「③まあまあそうだと思う」と回答した学生が多く，学生自身による評価もあまり高くなかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門知識や専門技術を身に着けるうえでの基礎知識となることから、1年次での開講は妥当である。また、受講学生は、1年前期の「心理学と心理的支援Ⅰ」において、限定的な内容であるものの臨床心理学領域の事柄について学習している。そのため1年後期に実施される本講義の知識が定着しやすいように感じられた。この点からも開講時期は適切だと考えられた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	復習や学生の質問への回答を丁寧に行うことを心がけつつも、予定している授業内容が15回以内に余裕をもって伝えられるよう時間配分に配慮した。新しく学習する内容が多かったため、余裕のある授業進行を心がけ、学生に知識が定着しやすいよう工夫した。また、受講学生のコメントカードの内容を反映し、事例の紹介も行った。学習した内容が実践でどのように活用されているのかイメージできることが知識の定着につながると考えた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の感想等を反映し授業内容を工夫したが、授業目標の達成状況はあまり良くなかった。受講学生による知識の定着度の差も大きいため、クラスルームを活用しながら毎授業にて確認テストを実施する等、理解度の底上げのための工夫を行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会心理学	3	後期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「資格取得に必要である」11.8%、「関心のある内容である」76.5%、「単位数を確保する」64.7%、「GPAをあげる」5.9%、「友人が履修している」17.6%であった。選択科目であり、自主的な判断により選択、受講されている科目と考えられる。 本科目は、個人と環境との関係を重視する心理学の領域を取り上げており、身近な現象を研究により理論としたものが多い。講義のなかでも身近な例を取り上げて、研究方法やその理論について解説を行うが、学生が日常生活や今後の専門性を生かした働き方と重ねて学ぶことができるよう、小レポートにて学生から具体的な例を提案させることにより、専門性のある概念や言葉に親しみ、関心を深めるようにしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は83.0点であった。80点以上は69.0%、70点以上は15.0%、60点以上は16.0%であり、全ての受講者が標準的レベル以上の知識理解を得たと考えられる。 学生の到達度自己評価は、平均点3.5～3.9点であった。特に、「事象を理解する視点や学びを深めたいと意欲を持つことができた」の平均点が3.9であった。 予習を1回以上行った学生は23.5%、復習を1回以上行った学生は41.2%であった。88.2%の学生が配布資料に記録を行っており、授業を重視して学んでいたと考えられる。自由記述にも授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として「授業の内容で十分満足した」「授業内に解決したから」という意見がみられた。また、自発的学習として課題以外に「他の社会心理学についての書籍を読んだ」「関連する書籍を読んだ」といった学生もいたようである。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験に頻出の内容である。また、それらの資格に加え、養護教諭、保育士など対人援助職として個人と環境との問題を検討するためには基礎となる学問である。心理学の概論、発達心理学、臨床心理学等の心理学の各領域の知識を獲得し、さらに専門性を高めようとする3年の時期に学ぶことは、適切であると考えられる。 受講動機では、「関心のある内容である」が76.5%と高かった。また、授業の質の評価にて「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.3であり、関心の高まりと学習段階に合わせた適切な時期に開講することができたと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は、テキストに沿ってパワーポイントで解説を加えながら説明を行った。身近な例を加えて説明するようにし、学生にも授業の後に、社会心理学の理論や概念を学生自身にとって身近な例で説明するよう小レポートの課題を課した。次の授業では、受講生全員の<例>をもとに、前回の授業を振り返った。 授業の質の評価では、「評価基準は明らかであった」の平均点は4.3点、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均点は4.3点、「説明は理解しやすいものであった」の平均点は4.1点であった。このことから、授業の進め方はおおむね評価されていると考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成および関心意欲の向上について、達成できた。今後も継続して学生の知識と意欲の向上に努めていく。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
微生物学	1	後期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、養護教諭資格取得に必要なから77.8%、関心があるから11.1%であった。講義内容としては、教職を意識した内容を強化すること、また、最近の感染症に関するトピックスを織り交ぜ興味関心を持ってもらうことに重点をおいた。 ②科目内容は、かなりのボリュームであるため、教育現場に関連した知識に焦点を当て、学校現場で問題になる感染症、その予防方策や法律などをピックアップして講義を行った。 ③内容を理解しやすい図を多く用いた講義資料を作成し、教科書と共に使用した。特に、自主学習では、教科書に戻り学習をするよう促した。 ④例年、実施しているポイント整理は、学生の自主学習を引き出す方策としては有効であり、それに並行して小テストを2回実施している。特に、今年度は、小テストの正答率の悪い問題に重点をおき解説を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①総合評価の平均値は65点（SD±21.8）であり、再試・追試対象者は、7名と4名で、うち9名が受験し6名が合格した。60点以上の学生が77%、70点以上の標準レベルが56%、80点以上の理想的レベルの学生が33%であった。平均点は昨年度と同程度だったが、標準レベル、理想的レベルに達した学生は、10%増加した。また、小テストの平均得点は12/20点だった。 ②学習量の評価と自由記述より自己学習を積極的にした学生が41%、一方、22%の学生は学習量が不足しており、その割合は、再試験者率と一致していた。声かけ、質問に積極的に応じるなどの対策はとっているが、学習量を増やすには課題が残る。 ③学生の自己点検評価値は、「知識を確認し新たに得ることができた4.6」、「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた4.4」「専門分野について学びたいと意欲をもつことができた4.3」、「自分なりの目標を達成した3.9」であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 この科目は専門教育科目で養護教諭取得免許取得に必要な必須科目である。福祉・医療・学校現場に必要な感染症の知識を身につけるうえで内容としては妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 養護教諭採用試験や福祉・医療現場で役立つ知識の習得を目指しているため学生の知識到達度と自己点検評価値からみても内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の自由記述より自主学習を促す意味でのポイント整理は、例年同様に効果があった。また、説明はわかりやすいとの評価も得ており、今までの講義準備や改善点を次年度も継続し維持していきたい。 ②学生の自主学習量については、個人によりかなり差が出ている。講義進行途中に声かけをしているものの、ノート整理や教科書への書き込み状況を把握する必要がある。加えて、本試験を理由なく放棄し、再試験のみ受験する学生が増えている。この点については、日頃の欠席状況をみながら事前にアドバイザーと情報交換を行っていく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今年度の定期試験の平均点は、昨年度と同様であり、加えて、標準的レベル、理想的レベルに達した学生の率は、10%ほど高くなっている。その点から言うと、専門教育科目、教員免許資格に関わる科目として将来の就職現場に必要な知識を習得し理解するという目標は、やや達成できたと思われる。しかしながら、傾向として、学生間で学習量の差が顕著にみられることから、講義中にノート整理や教科書の記載状況を把握するような取り組みが必要と思われる。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養学	2	後期	選択	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「栄養学」は、福祉に従事する立場から健康・栄養の大切さへの理解を深める科目であり、養護教諭一種免許状取得に必要な必須科目である。受講動機の「資格取得に必要である93.8%」であるのは当然の結果である。「関心のある内容である」が約25%であり、養護教諭として学童や思春期の子供たちの食に興味をもつ学生の割合が低い、この講義を受講後に少しでも関心のある内容となるように講義の展開を行う。 ②講義形式は、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。毎回の授業終了時に、その日の講義の復習小テストを行い、解説するようにした。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は90±7点と高く、39名の受講生中、A(秀)が24名(64%)ととても高く、B(優)が31%であり、C(良)が7.7%であった、D(可)および不可の学生はゼロであった。受講生の約92%が理想的レベルに至っており、全受講生が標準的レベル以上であった。よって講義内容は妥当と評価し、実施していく。また学習到達度の自己評価においては、講義への関心の高さがうかがえ、この科目を「的確に判断する力を得ることができた」、「学びを深めたいという意欲を持つことができた」「さまざまな課題を検討する力を得ることが出来た」との回答が多かった。これらの評価結果から今年度のこの科目のDPの達成は「達成された」と回答する。学習量の評価では、約50%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。専門分野以外の科目ということもあるため、予習復習を促すことはするが、主に自主性に任せるようにしたい。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、養護教諭一種免許状取得のための必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である：46.9%」「資格取得に必要である：93.8%」なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度からは、資格取得に必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約50%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は53%であった。講義初回時にシラバスの説明をしており、このシラバスを参考にしながら、講義を受講できたものと思われる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す予定である。だが、上記にも記載したように、福祉学科の学生にとっては専門科目外の科目であるため、予習復習時間に関しては、自主性に任せる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、養護教諭免許状の必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価から、概ね全てのDPを達成できたものとする。今後も学生の学修レベルの把握を行いながら講義を展開していくことを考える。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。授業評価では、担当教員に対し、栄養学に興味を持つことができた、講義がわかりやすかったと良い評価を得ることも出来た。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生理学	2	後期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	生理学は、細胞の機能から生命体の維持の基本となる主要臓器の働きについて学ぶ学問である。福祉学科、特に養護教諭を目指す学生にとっては必要な科目であることから、内臓機能や神経系の働きについて理解することに重点を置いた。高等学校で学んだ生物基礎の知識をもとに、対象を認識するための感覚器の働き、中枢での情報の統合、運動神経による骨格筋の制御の仕組みなど、基本的な事柄が理解できるように努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本試験の合格者は41名中39名で再試験者は2名であり、再試験の結果全員が合格した。最終成績の平均点は79.6±12.4点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）にほぼ到達していると考えられる。標準的なレベル（概ね70点以上）は28名おり、そのうち理想的なレベル（概ね80点以上）が13名いた。目標は概ね達成できたと考えている。 到達度自己評価のすべての項目において、「少しそうでないと思う」以下の否定的な意見が1割程度あったが、平均値が2.8-4.1、中央値は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」と「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が3.0であったがそのほかの項目の中央値が4.0であったことをみると、本科目で意図した教育目標はほぼ達成できたと言える。 評価は課題の提出をもって行ったが、ほとんどの学生が大変まじめに取り組んでおり、真摯な態度がうかがい知れた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、社会福祉士国家試験の中の「体の構造と機能及び疾病」において必要な生理学分野の科目である。受講生の約6割が資格取得を目指して受講を決めている。カリキュラムマップの中では、「解剖学」、「医学総論」などと連携して、人体の構造と機能と疾病の成り立ちについての正しい知識を身につけるための科目である。 近年の教員採用試験問題は、難易度の高い設問も含まれており、本科目の授業内容では不十分な点もあるかと考える。時間数が限られる中で、採用試験問題のレベルに合致した授業内容となるよう、創意工夫が必要と考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義で使用したスライドや資料は全てPDFとしてclassroomにて学生に配布した。これらの資料はほとんどが教科書から抜粋しており、教科書を読み進めるために必要なエッセンスを書き出している。つまり、自宅での復習や次回の予習に役立てられるよう配慮したつもりである。しかしながら、予習・復習を全く行わなかった学生が1/3程度おり、反省すべき点である。またインターネットの利用など半数以上の学生が行っていなかったことから、周知が足りなかったと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	限られた時間内に、人体のすべての臓器について基本的事項を習得することは不可能である。生理学で学ぶ事象については、身近な現象や病態などをできるだけ多く例示したつもりであるが、必ずしも学生にとって理解できる内容ではなかったのかもしれない。しかしながら、今年度は受講態度も課題の取り組み方も大変よく、講義をしやすかった。 今後の課題としては、より丁寧な説明を行い、教科書全ての項目を網羅しようとするのではなく、学生に興味を持ってもらえるような事例をもっと多く提示する必要があると考えている。次年度は、2年前期で開講される「解剖学」と連携し、大まかな一連の流れを示しながら、個々の講義の位置づけを伝えられるよう努力したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動処方論	3	後期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今回の受講動機をみると、14名中10名が「関心のある内容である」、「単位数を確保する」と答えていた。 授業においては、1年次の「運動と健康」の内容を振り返ることで、健康に関する正しい理解を促すと同時に、高齢者、妊婦、および子どもに適した運動（遊び）のプログラムの作成方法について具体的に説明を行った。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	履修者27名のうち1名（3.8%）が履修放棄した。履修者26名の最終的な成績の平均値は80.0（±11.0）点であり、90点以上が7名（27.8%）、89～80点が6名（23.1%）、79～70点が10名（38.5%）、69～60点が3名（11.5%）であり、多くの学生が標準的レベル達しており、50.9%が理想的なレベルに達していた。 授業評価アンケートに回答した14名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が7名（50.0%）、「まあまあそう思う」が4名（28.6%）、「まあまあそうだと思う」が3名（21.4%）であり、全員が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が11名（78.6%）と7名（50.0%）、「わりにそうだと思う」が2名（4.3%）と5名（35.7%）、「まあまあそうだと思う」が1名（7.1%）と2名（14.3%）であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.4～4.7）。 「思考・判断（DP2）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目3と4）についても、「かなりそうだと思う」が7名（50.0%）と6名（42.9%）、「わりにそうだと思う」が4名（28.6%）と4名（28.6%）、まあまあそうだと思う」が3名（21.4%）と4名（28.6%）であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1～4.3）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の「保健・医療関係科目」に含まれる科目である。授業では高齢者、妊婦、子どもそれぞれの特徴を理解させた上で、それぞれに適した運動（遊び）プログラムの作成方法について具体的に解説を行った。「知識・理解（DP1）」、「思考・判断（DP2）」および「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が4.5～4.7であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生の割合は、6回が1名（7.1%）、2,3回が2名（14.3%）、1回が4名（28.6%）、0回が7名（50.0%）であった。1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、2,3回が3名（21.4%）、1回が4名（28.6%）、0回が1名（7.1%）であった。 また授業課題以外の学習については、13名（92.9%）の学生の取り組んでいなかった。学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	増本 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅰ	3	後期	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。 受講動機としては「資格取得に必要である」70.0%、「必須科目である」50.0%、「関心のある内容である」15.5%であった。 関心度が低いことから科目趣旨のわかりにくさ等も考えられるため、オリエンテーションで目標と内容について丁寧に説明を行うことを心がけたい。また、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て工夫をしたい。 ②授業においては、公衆衛生学と学校保健学での学びを再確認できるように取組み、関連する養護教諭の職務と考察を加えた。将来、地域保健の知識と保健情報の収集について学校保健活動に応用できるよう、ICTを活用した模擬フィールドワークによる調査と分析をすることで、自主的なデータ収集と考察ができるよう取り組んだ。また、グループワークやプレゼンテーションによる演習を取入れて、理解の深まりと実践力につながるよう心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な平均値は、84.4点（±7.1）であった。理想的レベル（80点以上）19名であった。 成績評価から、全体的に目標達成されたと考える。講義以外の時間にも意欲的に取り組み、質問や情報収集を積極的に行っていた。プレゼンテーションにおいても協力し合い、創造的に演習を行っていたことから、知識の修得とその応用がみられた。自由記述から、「実際に部局に問合せてデータ収集を行った」、「データ調べを行った」、「グループワークが充実した」などの意見があり、地域保健の理解した演習・考察と考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップからの位置づけからみて内容的妥当性 本科目は養護教諭一種免許状を取得のための科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。 ②DP、行動面目標からみての妥当性 成績評価からみると、80%を理想的な達成レベルと考えると、全体成績およびDPの項目別にみても概ね達成している。 知識・理解の定着を図るよう、授業内容を工夫することから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	公衆衛生学の復習をしながら地域保健に興味関心を持ち、学校保健学との関連の理解と、養護教諭としての実践化につながるよう取り組んだ。 学生の授業評価において、「実際に部局に問合せでデータ収集を行った」、「県のデータ調べを行った」、「学校保健について調べた」などの意見がみられ自主的、意欲的な取り組みがみられた。一方で課題のわかりにくさもあり、より細やかな解説と演習支援など授業内容の改善に努めたい。地域保健に関する施策や実態、取り組みの背景や課題などを考え、保健情報の収集と活用する技術を修得し、学校での応用につながるよう心がけたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○本年度は全体的に満足できる結果であった。平均点は優レベルであり、知識の定着・思考を要求する問題とも大きな問題はない。 ○次年度は工夫を重ね、わかりやすい授業構造の改善に取り組みたい。 養護教諭として必要な基礎的な地域保健に関する知識の定着と、学校保健との関連や課題をとらえ、養護教諭の実践に応用できるよう授業内容を改善していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	増本 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護学	2	後期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。 受講動機としては「資格取得に必要である」100.0%、「必須科目である」52.0%、「関心のある内容である」24.0%であった。 資格取得についての意識が高く、また、看護学は広範囲であるため、オリエンテーションや各項目の丁寧な説明を心がけ、基礎的な知識が定着できるように解説や課題についても工夫をしたい。 ②授業においては、養護教諭に必要な看護理論について基礎を学び、養護教諭の力量としての看護観を培い、学校での実践につながる基礎看護の知識習得に取組んだ。症状別の看護を解説し、援助の根拠を持して学校での実践ができるよう、解剖生理学と医学概論等の復習を取り入れながら学習を進めた。児童生徒の現代的な健康課題に対応して図書や新聞記事等の探索、養護教諭として正確に医学情報の収集と整理、伝達する技術修得のため代表的な疾患を題材にプレゼンテーション演習を実施した。看護の基本的な知識を正確に、科学的根拠として理解できるよう心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な平均値は、79.4点（±8.8）であった。理想的レベル（80点以上）21名であった。 成績評価から、知識・理解に関する達成度は、67.6%であった。知識・理解について、看護倫理や人への理解に対する正答率は高かったが、医系科目を基盤とする知識の正答率から理解の難しさが考えられた。基礎的知識の理解を深められるよう授業構造を改善していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップからの位置づけからみて内容的妥当性 本科目は養護教諭一種免許状を取得のための科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。 ②DP、行動面目標からみての妥当性 成績評価から、知識・理解に関する達成度は、67.6%、関心・意欲86.5%、技能・表現81.1%であった。 課題について、真摯に取り組み意欲的であった。 知識・理解の定着を図るよう、授業内容を工夫することから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	医学系科目の復習をしながら看護学に興味関心を持ち、解剖生理学や医学等を基盤に科学的根拠ある看護学の理解と、正確な医療情報の収集と整理ができるよう取り組んだ。 学生の授業評価では、自由記述に、「レジュメを見返し復習した」「難しいと思ったところを復習した」、「課題以外で健康問題に関する新聞等を集めて読んだ」、「わからないところを調べた」などあり、熱心に取り組んでいた。さらに主体的な学びと整理につながるよう、質問に対する具体的な説明や、より細やかな解説など授業内容の改善に努めたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○本年度は全体的におよそ満足できる結果であった。平均点は優レベルに近いが、さらに知識の定着について授業改善に努めたい。 ○次年度は工夫を重ね、わかりやすい授業構造の改善に取り組みたい。養護教諭としての姿勢や看護観を培い、学校現場で科学的根拠をもって救急処置等の実践できる基礎的知識と応用力を身につけることができるように授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育者論	1	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全ての学生がそれに該当する。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないが、初年度の科目ということで、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、具体的な事例提示を多く取り入れ、1年生の興味・関心に沿ったものを準備した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価から、全体的な教育目標は「やや達成できた」と考える。学生間の学力差が大きな課題であるが、専門職としての原理原則に関する知識理解を深める科目であることから、全体の知識定着を図った。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士としての原理原則に関する知識教授を第一義とする講義系科目であることから、D P、C P、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは妥当なものであると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生間の基礎学力の差が大きく、個別の理解度把握が困難であった。授業の中でグループワークや短い演習を取り入れ、個別の理解度把握を進めると共に、知識の提示順を変更する等して対応した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	講義の中での個別の理解度把握が困難であった。大学に入学して、最初の専門授業ということもあり、授業参加度はそれほど悪くなかったが、中には連続欠席する学生もあり、最終的な達成度は個人差が大きい結果となった。 この点を踏まえて、次年度は早い段階で理解度が把握できるように毎時間簡単な振り返りを行う。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	西崎 亜紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの食と栄養	3	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	子どもたちの食生活は、生涯にわたり心身の健康に大きく影響することが明らかにされている。受講動機ををみると、『資格取得に必要である』との回答が100%であるが、「関心のある内容」との回答もある。まずは自分自身の健康管理ができること、また毎日の食事が乳幼児のからだと心の成長を支える場となる事を理解することを重点とした。 食品学や栄養学、調理学など基礎知識を身につけ、自ら、バランスの良い食事をととのえることができる等健康な食生活を実践し、子どもに食の大切さを伝え、家庭や社会への食育支援ができるようにした。 今回は、新たに教材を用いた。時折、復習や確認チェックを行い、学習状況を確認した。また、学生からの意見も授業に取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は92.6点であり，再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達していた。 授業の中での課題への取り組み、グループワークや発表も積極的に行われていた。 授業で学んだことをどのように実践していくか、さまざまな場合、場面をイメージする力をどのように獲得していくかという点を課題と捉え、次年度にむけて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DRCPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 国家試験に備え、現場で活かせるものとして、講義、演習を行った。 学生はグループワーク等に積極的に参加し、課題も十分理解し、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、シラバス記載だけではなく、口頭や資料でも示した。 資料の配布には、インターネットの共同授業（クラスルーム）を利用しているが、もっとクラスルームを活用できるように考えていきたい。 図書館等の利用をしなかったという回答が多かったので、インターネットだけでなく、図書等の活用につながるように改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年度の課題とされた項目については、平均が4.7と上がっていた。授業の課題以外の学習への取り組みや、復習を行った学生が少ないことから、自発的学習につながるように改善していきたい。 以上のことから、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 ことば	1	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全ての学生の動機がそれに該当科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価結果から全体的な教育目標は達成できたと考える。授業評価アンケートからも、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。一部、遅刻や参加態度が思わしくない学生もいたが、周りの学生がフォローする等、全体的には良い雰囲気で授業進行ができたのも、目標達成の要因であると考ええる。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連D Pについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、C P, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は概ね問題ないと考えている。実演形式で保育の表現技術について教授した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	成績評価上も概ね教育目標は達成できているとする。履修放棄の学生に対するサポートについて考える必要がある。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
障害児保育	3	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	現代の障害児保育と特別な配慮を必要とする連続体にある子どもの保育について、その保育理念、広義の方法論等々について、前期・後期を通して、学習できるように年間計画に基づいて授業を実施した。学生には予習及びプレゼンテーションを求めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講者は少なかったがバラツキがあった。ノート作成等の予習を求めたが準備不足の学生も一部存在した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得を目指す学生にとって必修科目であり、内容的な妥当性もあったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	予習及びプレゼンテーション準備で学生によっては負担感を感じていたように思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	現代の障害児保育について、コマ数が30コマある事で理解しておくことが期待される内容については概ね伝えることはできたと思うが、予習の提出物等から勘案すると十分に達成できたとは評価できない。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅰ	3	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。 学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価から、全体的な教育目標はやや達成できたと考える。 実習の準備に関わる科目のため、授業内容、進行については大きな変更は困難であるが、説明についてより詳しくする必要があると考える。 実習先からの評価をフィードバックすると共に、次年度の学生には事前に注意する点として伝えていこうと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進出した。講義だけでは、学生の理解に差が出るため、学習進度に合わせて2名の教員で授業時間外に個別に対応し、全体の授業進行を均一に保った。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実習先からの評価、成績評価から概ね教育目標は達成できていると考える。学生の学力差に対する対応が今後の課題である。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅲ	4	通年	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は保育士養成科目の一つであり、「保育実習Ⅲ」の事前指導、事後指導、スーパービジョンを行うものである。実習前指導においては、実習で求められる専門的知識・技術の確認と実習課題の明確化をはかり、実習中のスーパービジョンと事後指導においては、実践と理論の統合化を学生の主体的な学びと気づきの中から達成できるようスーパービジョンを行い、保育士として求められる総合的に対応することのできる力の涵養に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について、学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）に関する「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う50.0%、わりにそうだと思う37.5%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」においては（かなりそうだと思う37.5%、わりにそうだと思う50.0%）だった。「思考判断」（DP2）に関する「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「意欲関心」（DP3）に関する「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「技能表現」（DP5）に関する「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」において、いずれも（かなりそうだと思う25.0%、わりにそうだと思う62.5%）だった。「態度」（DP4）に関する「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」においては（かなりそうだと思う50.0%、わりにそうだと思う37.5%）であった。学生一人一人が多くの学びを得、実習先からも学生の熱心に取り組む姿を評価していただいたことから、本科目における目標を概ね達成したと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記述したように、学生の到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は「保育実習Ⅲ」と連動して展開される科目であり、事前学習、事後学習、実習中・実習後のスーパービジョンを行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業に参加するための準備を一度も行わなかった学生は12.5%、復習を一度も行わなかった学生は37.5%であり、授業の課題以外に学習に取り組んだ学生は50%、取り組まなかった学生は50%であった。卒業後も学び続けながら知識と技術を高めていく専門家であるために、主体的に学習に取り組み、自己研鑽を重ねていける姿勢を養えるよう、さらに学びの支援に力を注いでいきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標はある程度達成できたと考えるが、主体的学習態度の形成において、さらなる取り組みが必要であると考える。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育実践演習	4	通年	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、履修者全員資格取得を目指している。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記を踏まえ、保育士として勤務するに当たり必要となる実践的な知識・技術を演習形式でロールプレイを通して経験し、身に付けることが出来るよう、多様な演習内容を準備した。具体的には、4つの異なる演習の計画・実行・反省を通して、学修が進むように授業を進めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価において全ての学生が達成されたと答えており、成績もそれを反映するものであった。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、4年間のまとめとなる科目のため、関連D Pについては妥当であるとする。また、4年間の学習後に総合的に保育実践力を身に付ける科目として位置付けていることから、C P、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業への取り組み、授業内のディスカッションの内容、各演習の実施、振り返り、成績評価を踏まえて、授業の進め方は概ね問題ないとする。 各演習課題の準備について準備時間が不足するという学生の意見が聞かれるため、演習を従来の5つから4つに減らし、一つ一つにかけられる時間を確保した。そのため、例年に比べ円滑な授業運営が可能であった。ただし、準備期間中に継続的に課題に取り組むよう促し、適宜サポートする必要があると考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できているとする。授業進行については、継続的な課題への取り組みの促しとサポートが必要であるとする。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野（精神保健福祉領域）に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いている。ゼミで、司法施設や福祉施設の見学を積極的に行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会の研修会にも積極的に参加した。本ゼミを選択するに当たり、事前に全員と面談を行い、趣旨説明やゼミの学習内容を説明した。外部活動を行ったら、必ず振り返りを行い、レポートにまとさせた。更には、4年次につながる様に、最終的に卒業研究である「ゼミ論」のテーマの選定が行えるよう、アドバイスをを行った。感想等にて専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度及び一昨年度は、学術データベースの利用に関してが殆どなされてない状況であったので、卒業研究にもかかわる重要事項でもあり、利用の仕方からのインフォメーションを行った。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。最終学年になることも考慮して、時間の作り方に関しても、引き続き指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多く、精神保健福祉士養成レーンの学生が18名であった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授し、メンタルヘルスに関する内容も教授した。次年度には専門研究Ⅱが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、実践現場の見学を行ったので、現状と課題を追求できるように、さらなる内容を吟味していく必要があると感じた。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機としては、「必須科目である」87.5%、「関心のある科目である」43.8%の学生が答えている。 専門研究Ⅰでは個人で設定したテーマやグループで設定したテーマをもとに演習形式で行った。オリエンテーションではお互いを知るために、他已紹介等のグループワークを取り入れた。さらに、養護教諭にとっての「養護観」についてディスカッションを行った。また、各自がテーマを設定し、プレゼンテーション作成を行い発表し、その後そのテーマについてグループワークを行った。授業においては、グループワーク等を取り入れ積極的な意見交換を行い、自己の意見を発表したり、まとめたりする場面を保障するように心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は84.7点(±11.2)であった。 授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.8中央値5.0）、また意欲・関心が高く、自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.9中央値5.0）、コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値4.7中央値5.0）、職業選択の参考になった（平均値4.9中央値4.5）と答えていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.8中央値5.0）、また意欲関心においては、コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値4.7中央値5.0）、職業選択の参考になった（平均値4.9中央値5.0）と答えていた。 学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の学習量の評価においては、「グループでゼミの企画・運営を経験した。」「自分で気になったことや疾患について調べた。」「児童生徒の健康課題について調べた」、「包帯法、三角巾法などの練習をした。」などして積極的に授業に取り組んだという意見があった。また、図書館での学習などを通して、学生が学習準備をしていた。本年度は学生が主体的に取り組めるような授業内容の工夫を行った。また、学校現場の実践を学ぶために、本学卒業生が勤務する学校の保健室訪問を実施し、現職の養護教諭からの講話を通して、養護教諭としての実践力について学びを深める工夫を行った。 本科目を通して養護教諭として専門性を深めていけるよう、グループ討議、模擬体験などを取り入れ授業構造を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目を通して養護教諭としての専門性を深め、学校現場において活躍できるような実践力を身につけることができるように授業工夫していきたい。学生の意見として「先生の養護教諭としての体験談を聞けてとてもよかったなと感じます」という意見があった。今後も実務家教員として、養護教諭としての実務経験を活かし講義内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生一人ひとりの興味関心のあることが異なり、学習準備性も不揃いであったため、共に学び合い教え合うことを通じて、学びの意欲を高めると同時に理解を深められるよう授業を進めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習の到達度自己評価においては、「知識を確認・修正したり、新たに得ることができた」（「かなりそうだと思う」25.0%、「わりにそうだと思う」25.0%）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（「わりにそうだと思う」50.0%）、「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（「わりにそうだと思う」75.0%）、「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」（「かなりそうだと思う」25.0%、「わりにそうだと思う」25.0%）「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（「かなりそうだと思う」25.0%、「わりにそうだと思う」50.0%）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（「わりにそうだと思う」50.0%）であった。教育目標は概ね達成されたと考えるが、学生自身がより「達成された」と実感できるようさらに改善に取り組む必要があると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の「専門研究科目」に含まれる科目である。学生の学ぶ意欲を引き出し、これまでの大学の授業で学んだ知識、理解を土台として、自身の専門領域における関心と学びを深めていくこと、主体的自発的に学ぼうとする態度を形成することによって、自立した専門職として自身をさらに向上させていく人となるうえで重要な科目と捉えている。本科目はDP,CP,カリキュラムマップにおける位置づけから見て内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は平均値3.8～4.3であった。授業の進め方は概ね問題はなかったと捉えてよいと考える。今後も学生の学習意欲を高めること、主体的に学びを深める態度を形成することに取り組んでいきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標は概ね達成されたと考える。引き続き、学生の主体的学習態度の形成においてさらなる取り組みを進めていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	論文等の文献を読み内容を適切に理解すること、それをまとめて他者に伝えること、意見を交換し合うことを目標に文献講読を行った。後半は、学生それぞれが関心のあるキーワードを設定し、文献の選択を行った。専門研究Ⅱへつながるよう心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	どちらともいえない	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価アンケートにおける「学修到達度に関する自己評価」では、全ての項目において4点台であり高い結果となった。授業中の様子や作成した課題からは、どの学生も自身の関心に合わせて文献を探す力、文献を読む力、まとめる力が伸びてきたことが推察された。しかしながら、学生によっては無断欠席することや担当した日に課題をしてこなかったことからDP4は「どちらともいえない」と評価した。調べたことをもとに自分なりの考えをまとめていくことは今後の課題であることから、DP2は「やや達成された」とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	4年次の専門研究Ⅱへのつながりや関連を持たせるため、3年次での開講は妥当であると考えられた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方としては、今年度と同様に、学生自身が文献を探して読む作業を行っていきたい。教員による知識の提示や、それによる学生の知識の獲得よりも、学生個々の疑問や関心に応じ主体的に調べて学習するプロセスを重視したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	引き続き、成績評価基準や個々の課題に関する事項に関して、学生に明確に示し確認できるよう工夫を行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年次からの引き続きで、社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野（精神保健福祉領域）に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いた。ゼミで、司法施設や福祉施設の見学を積極的行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会のWeb研修会にも積極的に参加した。3年次に設定した、自分の卒業研究の課題を「ゼミ論」としてまとめさせ、それに伴う文献研究や実践現場でのインタビューや調査等の指導を行った。リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、理想的レベルには達成した。また、ゼミ論、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。ゼミ論、レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前年度は、一昨年度と同様に、ゼミ論をまとめるために、学術データベースが、あまり利用がなされてない状況であったので、今年度はその活用方法を教授した。次年度も、利用の仕方からのインフォメーションを行うことを引き続き行いたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。就職活動や国家試験対策で時間を取ることが多くなるということも考慮して、時間の作り方に関しても、引き続き指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多く、全員精神保健福祉士養成レーンの学生の受講であった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授した。卒業研究のゼミ論完成に向けて、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、よりリアリティを習得できるように、実践現場の見学を行って、現状と課題を追求できるように指導できた。最終的には、全ゼミ生の就職が決定し、国家試験も良い結果を残せた。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」が100%である、3年次の専門研究Ⅰからゼミの変更により担当することになったが、基本的に学生自らが研究領域、テーマを決め主体的、積極的に研究の成果をまとめる取り組みを指示した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	自分の学びたいこと、研究してみたいことを「インターネットのホームページを検索し、利用した」と自己評価している点は、本人の調べ学習の報告を受けながら、特に成長の跡をかんじられるものがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の主体性から自分なりの成果を出せたことが全てで、指導した立場からは評価できると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	卒業研究を各自のテーマで取り組ませ、図書館、インターネットなどを活用するよう指導した。インターネットを活用することが主になり文献を読みこなすよう指導していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	卒業研究のテーマは本人の主体的な考えからのものであった。本人の希望した専門職に就くことができたことは学生の努力の成果だと考える。次年度以降も同様に指導していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○本年度の専門研究Ⅱは全員教職課程参加者であるため、研究テーマも養護教諭の実践と関連の深いものであった。専門研究Ⅰの段階では各自の研究テーマを絞り込めない学生もいたため、専門研究Ⅱはあらためてテーマ設定から開始した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	○コロナ禍により専門研究Ⅰの成果が十分とは言えない状態で専門研究Ⅱが始まった。 ○養護教諭としての実践的テーマを選択するものが多く、養護実習の準備や教員採用試験対策とも連動させることで、学生の意欲関心を高くすることができた。 ○技能表現などは達成できた部分と手つかずの部分が混在していた。 ○模擬授業の教材研究や発表など、多くの活動をグループワークで行うことで意欲関心、協調性、責任感などの点で効果があった。 ○ゼミ時間外でも訪問やメールを通じた質問等も盛んに行われ、活発な学習が行われた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○DP、CP、カリキュラムマップに位置づけられた科目であり、内容妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○教員採用試験後には、次年度教員採用試験に関連したゼミ活動をする学生、社会福祉士国家試験と関連したゼミ活動をする学生と、各自の目標を明確化していた。 ○少人数である利点を生かし、ゼミメンバー相互での連絡・協力体制ができていた。 ○次年度はゼミ人数が多いため、根本的に運営方針を検討する必要がある。養護実習から教員採用試験までと、その後でゼミ内容や運営を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○本年度ゼミ生は卒業後も養護教諭を目指し、講師として現場で活躍している者も多い。 ○社会福祉士国家試験の結果も良好で、ゼミ単位で前半の採用試験、後半の国家試験と上手く切り替えた取り組みができていた。 ○卒業後も次年度教員採用試験の対策を希望する学生とは連絡を取っており、継続的な支援を行いたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機としては、「必須科目である」100.0%、「資格取得に必要な科目である」25.0%という結果であった。 専門研究Ⅱでは専門研究Ⅰで取り組んだテーマをもとに個人で発表を行い、テーマについてグループワークを行った。さらに、そのテーマについて探索的に研究し、養護教諭としての専門性を高めるように講義内容を工夫した。昨年度、新型コロナウイルス感染症の流行により実施できなかった保健室訪問について、実際に学校現場に出向き、現職の養護教諭による保健室経営についての講話、児童生徒対応について学びを深めることができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値82.0点(±9.7)であった。 授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.0中央値4.0）、また思考・判断、自分が学ぼうとしている専門分野において様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.0中央値4.0）、また、意欲・関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.3中央値4.0）と答えていた。さらに職業選択の参考になった（平均値4.1中央値4.0）と答えていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.7中央値5.0）、また意欲・関心において自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.3中央値4.0）、また、職業選択の参考になった（平均値4.1中央値4.0）と答えていた。 学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の学習量の評価について、「先生の言われることを熱心に聞いた。」「救急処置や模擬授業について学修した。」「教員採試験の勉強」、「わからないことをインターネットなどで調べた」などの意見があった。また、図書館も積極的に活用していた。さらに学生が充実感や達成感を味わってもらえうような授業内容を工夫していきたい。本科目を通して養護教諭として専門性を深めていけるよう、グループ討議などを取り入れ授業構造を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目を通して養護教諭としての専門性を深め、学校現場において活躍できるような実践力を身につけることができるように授業構造を改善していきたい。 また、学生の自主性を育てるために、学生が計画した模擬保健室での実技練習なども積極的に取り入れていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては、「資格取得に必要である」96.4%、「必須科目である」50.0%、「関心のある科目である」28.6%である。 これらのことから、授業では養護教諭の執務について、学校保健で学んだことを基礎にできるだけ具体例を示し、グループワークやロールプレイを取り入れ、関心意欲を高めるように心がけた。 ②本科目は学校保健の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について学ぶ。学生は自身が児童生徒のときに会った養護教諭のイメージを持っている学生が多い。そのため、オリエンテーションでは自分自身が児童生徒だった時の養護教諭のイメージと理想の養護教諭像のグループワークを行い、授業に対する関心意欲を高めるように心がけた。講義内容は、養護教諭の職務内容をわかりやすく解説し、学校現場の実践に役立つように、具体的な事例を提示し、養護教諭の職務内容への理解と専門性について解説した。さらに、第14回では学生自身が養護教諭として保健室経営がイメージできるように理想の保健室のレイアウト保健室の掲示物を作成し、グループ発表を通して、養護教諭の執務がより具体的にイメージできるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値78.0（±9.0）であった。理想的レベル（80点以上）は19名であった。 目標別の到達度は、知識・理解に関しては77.0%、思考・判断77.3%、関心・意欲77.0%であった。基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的な知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な知識の定着を確認しつつ、グループワークなどを通して応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては知識・理解において、知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.7中央値5.0）、自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.7中央値5.0）また、関心意欲においては、自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.7中央値5.0）であった。 次年度に向けて、基礎的な知識を活用し応用問題に対応できるように復習問題などの課題を取り入れていきたい。さらに、発展的に課題を解決していく力を身につけることができるように授業内容を工夫していきたい。課題以外に取り組んだこととして、「関連の資料等を読んだ」、「授業で習ったことを調べた」、「本を読んだ、試験問題を解いた」など意欲的に学習に取り組んでいた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。 受講動機としては「資格取得に必要である」94.6%、「必須科目である」50.0%であった。 また、学生の授業評価においては知識・理解において、知識を確認したり、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.7中央値5.0）、また、自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.7中央値5.0）、職業選択の参考になった（平均値4.8中央値5.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て知識・理解に関する達成度が比較的低かったが、基礎知識を活用し、応用問題に適應するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業以外に取り組んだこととして、授業内容をもとにレジュメを活用し、予習や復習に取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価においては、「家で新聞をとっているため、子どもの健康課題について探しノートに貼りまとめた」、「レジュメを見ながら単語の復習をした」、「先生の指定図書を読み学びを深めた」、「教員採用試験の勉強」という意見があり、意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえた。また、「15回わかりやすい授業をありがとうございました。現実の養護教諭を知ることができ、大変だと改めて思いました。それでも養護教諭になりたいという気持ちは変わらず、むしろ強まったので、3年生でも頑張りたいです。」などの意見もあった。 さらに授業では、学校現場で臨機応変に対応できるような実践力を身につけることができるように、グループワークなどを取り入れ、コミュニケーション力や表現力を身につけることができるように、授業内容を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、養護教諭は学校現場において、臨機応変に対応することが求められる。基礎的な知識を定着させ、さらに活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。今後もclassroomに資料を提示し、学生が事前学習や復習に役立てることができるように活用していきたい。また、グループワークなどを取り入れ、積極的な意見交換ができるよう学生の要望に応じていきたい。さらに、授業内容について基礎的な知識の定着を図るとともに、復習課題を提示し、応用力の養成にも取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会的養護Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期社会的養護Ⅰを踏まえた演習科目で、学生にはテキスト予習の上授業に参加し、グループ討議のあと纏めは発表することを求めた。教員は必要に応じて当該授業内容に関する付加的資料も用いてコメントし理解を深めるように準備した。また対人援助のまさに最前線である社会的養護において実践者として求められる人とは何でありどうあるべきかを自問し、主体的に行動できる礎の一部を形成できるように学生に伝えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	予習やプレゼンテーションの評価として概ね目標を達成できたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得を目指す学生の必修科目である。内容的には妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	予習として、テキストの一定程度の熟読が求められたが概ね理解できていたと評価できる。テキストが課題別に編集されているのでキーワードとその内容理解が結び付きやすかったのではないかと学生の反応からも推測できる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体としては、概ね学習目標は達成できたと考えられる。将来社会的養護に関わる就職を考えている学生もありそれらの学生については、対人援助の最前線で活躍できるように、人とは何でありどうあるべきかを常に模索し、更なる学習の深化を期待したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子どもの保健	1	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であるという結果であった。 そのため、専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については概ね達成できたと考えているが、成績評価から全員が目標を達成したとはいえず、 「やや達成された」とした。課題に取り組む際に「図書館利用」「インターネット利用」については一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、学習準備性については、個人によって意欲・能力に大きな差異がある。資格取得のための科目ではあるが、科目自体の意味を考え、主体的に参加する学生の割合はそれほど高くないと感じる。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、D P の知識理解、技能表現に合致するものであり、C P、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、今後の課題として学生と教員間でさらなる評価の共有を行うことで目的の共有が達成され则认为。集団内の学力・意欲・態度に開きがあるため、全体の授業の流れとは別に、個人の学びに応じた支援方法を模索する必要がある。一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する小テストが全く回答できていなかったり、「学習量の評価」の復習時間の短さの通り、学習習慣が身につけていない学生が一部存在する则认为。これらの学生に対しては、教科書の内容解説や専門職としての事例提示ではなく、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要である则认为。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目で、成績評価の結果からは、学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できた则认为。一部成績下位の学生に対する関心・意欲を高める取り組みが課題である。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子ども家庭支援の心理学	3	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」20.0%、「資格取得に必要なである」40.0%、「関心のある内容である」60.0%、「単位数を確保する」40.0%、「GPAをあげる」20.0%、「友人が履修している」20.0%であった。 本講義は、保育士資格取得に必修の科目である。したがって、資格取得のため十分に学修する意欲がある学生の履修が中心であることを念頭に授業を展開するよう心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業成績の平均点は91.0点であった。90点以上の学生は70.0 %、89点～80点の学生は20.0%であった。出席数の不足した学生以外のすべての学生が標準レベル以上の学力を修得することができた。 学生の到達度自己評価では、平均値は4.0～4.2点であった。 予習・復習を1回以上行った学生は予習は60.0%、復習は40.0%であった。自発的学習に取り組んだのは40.0%であった。自由記述によると「配布資料を読んだ」「教科書を読みました」とのことであった。それ以外の学生は、「十分だと思ったから」「課題で復習することができたから」などの理由が見られた。毎回授業後に課題を課していたため、授業と課題を重視した学習をしたことがうかがえる。授業では指示していないが、図書利用として「インターネットのホームページを検索し、利用した」学生が40.0%いたことから、予習復習に加え、授業内容をきっかけに知識を広げようと試みた学生もいたことがうかがえる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目「子ども家庭支援の心理学」は、生涯発達心理学と親の心理・家庭の心理・社会的課題などの内容を含んでおり、子どもと家庭を支援対象としてどのように理解するかを学ぶ科目である。子どもを対象とする保育のみならず、養育者を対象とする支援のあり方にまで視野を広げ支援を考えていくことが求められる。したがって、保育の基礎を1, 2年次に学んだ後の3年次後期の開講は適切であると考えられる。また4年次以降の保育実践の展開に繋げていくためにも適切な時期に開講されていると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	テキストに沿って進めた。また、授業前にはテキストの内容が整理できるようプリントを配布し、授業後には課題プリント・自主学習プリントを配布した。テキストに不足する情報は資料として配布した。 授業の質評価では、「評価基準は明らかであった」「学習の範囲や課題は明らかであった」、「学生が参加する機会が作られていた」「質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が4.6であり、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が4.2であった。授業の進め方はおおむね肯定されているといえる。自由記述の意見にも「分かりやすかったです」という記述がみられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成できた。 評価基準を満たす全ての学生が単位修得することができた。 学生の参加する機会や学生からの質疑への応答の機会を増やすことができ、学生同士の学び合いを促進し、到達度自己評価をより実感できるような授業展開ができた。引き続き学生の目標達成に向けて工夫しより良い授業が実施できるよう努めていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容の理解と方法Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業では、保育士に求められるピアノの技術を習得する。受講動機は「必修科目である」、「資格取得に必要である」、「単位を取得する」が選択されており、保育士に必要な技術ということが理解できていることの他、「関心のある内容である」も28.6%回答されており、学生の積極性が示唆されている。前期の「保育内容の理解と方法Ⅰ」で習得したピアノ演奏技術を引き続き向上させ、子どもの歌の弾き歌いに発展できるよう、伴奏の技術を取り入れた指導を行う。入学前のピアノ演奏歴がそれぞれ異なるため、教員が学生の練習内容を確認できるよう「レッスンシート」を継続し、毎回チェックすることで、適切に助言できるよう工夫した。弾き歌いのレパートリーを増やすため簡易的なコードを弾くことで演奏できる楽しさを伝えられる指導内容を取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された					達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は89.7点であり、再試対象は0名であった。理想的レベルは（概ね80点以上）に達したものは15名であった。ピアノおよび弾き歌い課題では、自主練習が必要不可欠であり、理想的レベルに達しなかった学生は、欠席が多く明らかに練習時間が少なかったようである。理想的レベルに達した学生は、毎日一度は数分でも練習し、学生が技術習得に向けて自主的に取り組んできた。ピアノ経験に関わらず、初心者でも練習によって技術を習得することができたと考えられる。また必要に応じて個別指導を行うことによって全員が標準レベルに到達することができたと考える。今後は、練習しない学生が、自主的に取り組めるよう具体的な対応を考えていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」であり、資格取得と関連した必修科目である。保育士に必要な技術を習得する科目であるため、内容的には妥当であると考え る。 ②DP,行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から技能表現に関して、教育目標はやや達成されており、全体を通して目標はやや達成されていることから、内容的には妥当であったと考 える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単 にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値が4.4であった。ピアノ奏法の評価基準について、項目毎 の点数を具体的に示すことで、学生の試験に向けた取り組みに役立ったと考える。その他の項目についても、平均値は4.4であったことから、進め方につ いては問題ないとする。次年度は、学習への意欲をさらに向上させることができるよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	試験結果および達成度自己評価の結果と学生の取り組みの様子から、教育目標の標準的レベルに達成できたと考える。本科目は1年時のみの開講であり2年 次以降は個人の努力でさらにピアノ奏法のレベル向上に努めていくことが求められることから、就職試験の課題曲を提示し、目標とする曲を明確に示すこ とで、学生の技術習得への意欲を高め、自発的な練習につながるよう工夫したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会福祉の原理と政策Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（3年次・必修）の1つであり、新カリキュラムへの移行に伴い、本年度が1年目の開講となった。内容は、主に社会福祉の諸原理や政策の立案・展開に関するものであり、学生にとってはやや難易度が高いと思われる。 したがって、授業は教科書を中心に展開し、單元ごとにレジュメを作成した。また、重要語句やポイント等を判別しやすいようレジュメの内容・形式を工夫するとともに、図表・イラスト等も積極的に用いた。さらに毎回の授業後にはコメントカードを提出させ、理解度の把握に努めた（理解が不十分と思われる場合は、再度、解説を実施）。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の平均（不適格者3名を除く）は78.1点であり、この点において教育目標はある程度達成したと考える。各DPの達成度について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う35.2%、わりにそうだと思う33.3%）であり、目標をある程度達成したと言える。「思考判断」（DP2）は、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う35.2%、わりにそうだと思う27.8%）であり、これも目標をある程度達成したと言える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う40.7%、わりにそうだと思う22.2%）であり、ある程度目標を達成したと考える。 一方で、学習量の評価に関して、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」（していない70.4%）、「授業の予習」（0回55.8%）、「授業の復習」（0回44.4%）などの回答が見られ、主体的・自発的学習態度が十分でない学生も多く存在した。この点では、課題が残ったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 上述の通り、期末試験の平均は78.1点であった。また、各DPにおける学生の到達度自己評価においても、本科目の教育目標はある程度達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は、社会福祉士養成課程の新カリキュラム移行により、本年度、初めて開講された科目である。期末試験の結果や教育目標の達成度を見ても、CP・カリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の教育目標はある達成されたものの、「学習量の評価」（授業の課題以外の学習への取り組み、予習・復習への取り組み）において、課題が残ったと言える。また、図書館の利用においても、「図書・雑誌の利用」（利用なし88.9%）、「学術データベースの利用」（利用なし94.4%）、「ホームページの利用」（利用なし74.1%）となっていた。今後は、学生の主体的・自発的な学習態度を引き出す観点から、授業内容や教授方法などの工夫・改善を行ってきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生にとってはやや難易度が高いと思われた本科目であったが、教育目標はある程度達成できた。これには単元ごとのレジュメの作成、図表・イラストの積極的活用、コメントカードによる理解度の把握などが有効であったと考える。引き続きこれらの取り組みを行っていきたい。 一方で、学生の主体的・自発的学習という点では、前期の「社会福祉の原理と政策Ⅰ」と同様の課題が示された。授業を通して抱いた福祉への興味・関心を自ら能動的に深めていく学習態度をどう培っていくか、今後も考えていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会学と社会システム	1	後期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	○高校時代までに経験したことのない授業であり、いったい何を学ぶのかという戸惑いが大きい科目である。それを興味関心に結びつけることができるよう、様々な事例を準備した。 ○社会福祉士国家試験に対応した授業であるが、受講学年が1年生であるため、学習意欲との直接的な結びつきはないと考えられる。 ○抽象的概念が多く出てくるため、それを具体的に考えるトレーニングを行う旨を初回授業で説明し、学生が意識的な授業参加をできるよう促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	○（昨年度）平均点92.7点、秀54人（73.0%）、優14人（18.9%）、良4人（5.4%）可1人（1.40%）、不可0人（0.0%）。SD7.43。 ○（本年度）：平均点76.6点。秀5名（6.8%）、優31名（42.5%）、良22名（30.1%）、可12名（16.4%）、不可3名（4.1%）。SD12.57。 ○昨年度までは、全員がほぼ完全に課題をクリアできるという基準で試験を設計していた。本年度からは平均点を75点程度に想定し、全体が単峰性の分布をし、かつ不可をできるだけ少なくするという目標で実施した。そのため、昨年度との数値比較で学力比較はできない。 ○そのような前提に立って本年度の目標達成状況を評価すれば、全体として満足できる結果だと考える。ただし、不可の学生が3名いたことは大きな課題である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○社会福祉士国家試験の受験科目と対応しており、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置付けからみた内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○本年度は知識理解の設問に難しいものを取り入れ（複数の知識を組み合わせるなど）、記述式の設問も増加した。それらを練習問題などで事前に演習させ、問題形式に慣れさせるなど工夫した。 ○テキスト内容の難しい部分、イメージしにくい部分をレジュメで補足した。また、現代社会の課題などについては広い範囲から題材を準備し、学生の日常的興味関心を高める工夫を行った。 ○ニュース、動画、画像などを活用して興味関心を高めるとともに、理解の向上を促した。 ○classroomに参考資料などを紹介するなど自己学習を助ける教材を提供した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○国家試験科目で1年次履修なので、細かの知識の定着ではなく、社会学に関するイメージづくりと、現代社会の問題への興味関心を高めることに重点を置いた。 ○1年次の学習を基盤に、4年でもう一度社会学を復習するための土台作りであり、高い平均点に集中することはモチベーションにも良いと考える。 ○世界史の知識の有無が影響するため、高校時代の履修状況により学生の反応が異なる。大学時代に教養として世界史を学び直す働きかけも必要だと感じている。 ○過去数年間の授業内容・程度は十分に習得できていたので、今年度からはアウトプットの質を高める方向に転換し、ある程度満足できる結果となった。来年度は不可を出さない工夫（練習問題を複数回解かせて、授業内容がどのようなアウトプットを要求されているのかを実感してもらうなど）を行いたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	1	後期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験に関する指定科目で本学では必修科目でもある。特段、社会福祉専門職になるための基盤となる科目であり、本学科で非常に重要な科目であることから、動機付けを大切に講義している。 第一回目の講義時に受講に關しての詳細の説明をし、シラバスに則って講義を進めた。講義の最初には、新聞等から毎時間必ず時事に関する話題を提供し、それが社会福祉専門職としてどのように捉えたらよいかを考えさせる時間を設けた。予習復習の内容の説明、理解しておくべきキーワード、実践につなげがうように専門職能団体の研修会案内等々も随時行った。リアクションペーパーに関しては、予習復習の時間の記入や、その方法、また本日の自己採点点数記入などを導入し、学習意欲の向上に努めるよう工夫した。 リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、1名の体調不良での再履修者を除いて受講学生が合格領域に到達しており、標準的レベル以上に達成したものと考えられる。定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。また、遅刻や欠席がほとんどなく、定期試験の結果も理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、幅広く社会福祉専門職としての現状や考え方、障害福祉、精神保健福祉、貧困等々の多岐にわたる分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得するための必須専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、社会福祉を学ぶための1年生で開講する基礎的科目であることから、福祉専門職に興味があるということで、非常に高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解は一定程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということと、前期の「ソーシャルワークの基盤と専門職」の講義から続く、福祉学科の福祉の専門科目ということで、非常にモチベーションの高さを感じられた。また、今から開講される、社会福祉士や精神保健福祉士の関連科目とのつながりを考えて、思考が継続できるように教授を行った。次年度も、それらに引き継ぐような関連性を持ちながら講義を行いたいと考える。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回福祉業界の時事に関する資料配布し、その説明を行い、福祉専門職としての理解を深められたと感じられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	社会福祉士及び精神保健福祉士の、両方の国家試験受験資格を取得するために必要な科目であり、福祉学科における福祉の専門科目ということで、非常にモチベーションの高さを感じられた。また、今から開講される、社会福祉士や精神保健福祉士の関連科目とのつながりを考えて、思考が継続できるように教授を行った。次年度も、それらに引き継ぐような関連性を持ちながら講義を行いたいと考える。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回福祉業界の時事に関する資料配布し、その説明を行い、福祉専門職としての理解を深められたと感じられる。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機については、「必修科目である」95.5%、「資格取得に必要である」68.2%、「関心のある内容である」22.7%であった。本科目は1年次「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」の学習内容の理解を前提とした科目である。既習内容を踏まえてさらに理解を深めると同時に、ソーシャルワーク実践への理解が深まり、ソーシャルワーク関連科目を学ぶことへの意欲が高まることに重点をおいた。具体的に詳細な実践事例を用いてクライアントの状況へのイメージを膨らませつつ分析・考察を深め実践技法を理解することが可能となるような授業展開に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」（DP1）において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う52.3%、わりにそうだと思う29.5%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う50.0%、わりにそうだと思う22.7%）、「思考・判断」（DP2）においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（かなりそうだと思う52.3%、わりにそうだと思う20.5%）、「専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う38.6%、わりにそうだと思う29.5%）、「関心・意欲」（DP3）においては「専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う47.7%、わりにそうだと思う27.3%）、「態度」（DP4）においては「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う40.9%、わりにそうだと思う29.5%）、「技能表現」（DP5）においては、「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う43.2%、わりにそうだと思う31.8%）「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う25.0%、わりにそうだと思う27.3%）であった。本科目における教育目標はある程度達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記載したように、試験の結果、学生の学習到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次の「ソーシャルワークの基盤と専門職」および「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」での学習内容の理解を前提とした科目であると同時にこれら2科目と比較して難度が高くなるため、これら2科目での学習内容を振り返りつつ、他の関連科目での学習内容も取り入れつつ、総合的かつ包括的にソーシャルワークを実践するための視点と求められる知識を培うことを意識した授業内容と展開を心掛けた。ソーシャルワーク関連科目での学びの統合が求められる科目という点から、適切な位置づけであると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均値3.8～4.4であった。学習量の評価において、一度も「30分程度以上の準備」を行わなかった学生が66.0%、「30分程度以上の復習」を行わなかった学生が38.6%だった。復習に重点をおいて取り組むよう学生に伝えていたことが反映された結果と考える。授業での学びをきっかけとしてさらに学びを深める自己学習に取り組む姿勢が養えるよう、改善を重ねたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標は一定程度達成できたと考える。授業中の学習のみにとどまらず、学生自身がさらに学びを深めようとする意欲を引き出し、主体的自発的に学ぶとする態度の形成につながるよう、さらなる改善を行っていききたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	中川 美幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	毎回事例を交えながら、教科書の内容がイメージしやすいように努めた。ミニテストを行ったり、自己学習で振り返りができるよう課題を出すなどの工夫も取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	講義形式の授業のため、どうしても「コミュニケーション能力を高める」や「自分の意見をまとめる」という点が不足しがちである点が、知識を確認したり、専門分野の課題を検討する力を得ることができたなど4.0～4.2の評価であり、一定の目標は達成できたと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度の自己評価」、などから、本科目の位置づけからみた内容には妥当性があると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	社会福祉の対人援助職が身に着けておく姿勢や倫理観も含め、知識と技術を身に着けるものであることから、関連DPについては妥当であると考える。コミュニケーション能力を高めたり、自分の意見をまとめる機会を今以上につくることを今後は検討したい。自己学習の機会をつくる宿題は、後期の試験の全員の点数からも効果的であったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体的な方向性は現状を基本とする。学生の自己学習を促す機会を増やす工夫として、時に自己学習でレジメをまとめることなどは継続する。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	後期は、前期の学びを踏まえ、地域福祉を推進するためのソーシャルワーク（「地域福祉援助」）を中心に講義を展開した。具体的には、従来から社会福祉協議会等の基本的な実践技術であったコミュニティワーク（地域福祉の基盤づくり）に加え、近年「社会的つながりの弱い人々」や「制度の狭間」、「複合課題」等への対応として重視されるようになったコミュニティソーシャルワーク（地域を基盤としたソーシャルワーク）について指導をおこなった。また社会福祉法改正に併せ、近年、地域福祉に関連する施策（総合相談の窓口の設置、重層的支援体制整備事業など）が活発に展開されており、その動向を伝えながら「地域福祉のこれから」について学べるよう講義内容を構成した。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。なお本年度は①講話法を中心とした講義の展開が主であった。地域福祉の視点は、福祉専門職のみならず、教職・保育などと地域を担う支援者において横断的な理解が求められる。そのため3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。②初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。③レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。④本講義の特性上、地域福祉に係る知識の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均値は3.1～4.2と全員が標準的レベル及び理想的レベルに概ね達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、（3）「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」、（6）「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、（10）「職業選択の参考になった」が平均値4.2と最も高かった。3「授業の質評価」は平均値は4.1～4.5、中央値は3.8～4.5の水準であった。 知識理解に関しては、地域福祉の観点からその知識について問うものである。地域福祉の概念・歴史、法律・制度、近年の地域福祉の問題等については、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士・精神保健福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、地域福祉の概念・歴史、法律・制度、サービスを理解できるように今後も努める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、地域の動向等)、福祉法制度・サービスの動向を注察する必要があるが、2023年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、地域の動向等)、福祉法制度・サービスの動向等についての表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.1と全体数値よりも低かった。本科目は地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。そのため、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的评价と課題をお願いします。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門を学ぶ位置づけであることから、地域福祉(コミュニティソーシャルワークなど)に関する実践をおこなうための知識・技術の教授については概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、地域福祉は広範な知識を取り扱うため、イメージしにくい課題があると考ええる。そのため事例の検討や演習活動を一部取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会保障Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は46名（回答率57.5%）であった。受講動機を見ると、「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」63.0%であった。本学科における必修科目であるとともに、社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、法改正が頻繁に行われる社会保障制度について、最新の情報を提供することに努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、授業中の確認テスト、コメント、後期試験を用いた。素点の平均点は70.86点であった。また、理想的レベル（90点以上）に達した者は4名、再試対象者は13名であった（ほか、出席数不足が3名）。昨年度および前期の「社会保障I」と比べて、平均点がやや低下している。 到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.2、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値は4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値はともに4.0、「自分なりの目標を達成した」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値はいずれも3.9であるほか、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」を除くその他の項目の平均値は3.7であった。前期の「社会保障I」とほぼ同様ではあるが、昨年度の数値を下回っている。これは、回答率がが昨年度の2倍以上に上昇したことで、意欲の高い学生の割合が相対的に低下したものと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「必修科目」、「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であるとする。 ②DP行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。 よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.5、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は4.4、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.2、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.0であった。これも昨年度を下回っているが、回答数は昨年度の2倍以上となった影響も否定できない。なお、前期の「社会保障I」と比べて、数値はやや上昇している。 学習量について、予習をしていない学生が23名、復習をしていない学生が15名と、授業以外の学習をしていない学生の割合は昨年度より増加しているが前期の「社会保障I」と同様の割合である。授業の課題以外の学習に取り組んでいない学生は27名と、前期の「社会保障I」より増加している。学習に取り組んでいない理由については、「授業内で理解できたから」、「取り組む時間が取れなかった」、「取り組み方が分からなかったから」などの回答がみられた。他方、授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は19名で、具体的に取り組んだ学習については、「授業内容を振り返り、自分なりにまとめた」、「復習」、「興味のある話題について家でネットで調べた」、「ニュースや新聞を見た」などの回答があった。 学生の意見については、「分かりやすい説明をありがとうございました」とのコメントが見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えており、現時点で改善すべき点は特になく考える。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
障害者福祉	2	後期	必修	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次必修科目であり、社会福祉士指定科目である。本科目は社会福祉の基礎科目のひとつであるため、障害者福祉の理念等の基本的な視点を伝えるとともに、国家試験に必要な知識を伝達できるようにした。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が100%、「資格取得に必要である」が54.2%、「関心のある内容である」が16.9%であり、本科目に対する学生の関心の低さがうかがえる。したがって、できるだけ学生の関心を高められるよう、出生前診断に象徴される優生思想や、「親亡き後」問題に象徴される社会的排除や孤立の問題といった具体的な事象を取り上げ、アクティブラーニングを取り入れながら、グループ討議を通して考えを深めていけるような取り組みを行った。また、障害者の実像について具体的にイメージできるよう、できるだけ動画等の視覚教材を用いるようにした。さらに学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は77.5点、中央値81点であり、標準的な成績であった。内訳をみてみると、A評価37%、B評価14%、C評価14%、D評価19%、E評価13%であり、再試験対象者が10名であった。A評価・B評価で5割を超えたが、D評価・E評価も3割を超えており、成績の開きが大きかった。成績下位層の理解度を上げられるよう、教授方法を工夫する必要がある。 学生の学習到達度の自己評価をみてみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値3.8、中央値4.0であったが、「全くそうでないと思う」と回答した学生が1名おり、目標は「やや達成された」と判断した。各項目をみてみると、DP1の知識理解については、平均値4.2、中央値4.0、DP2の思考判断については、平均値4.0、4.1、中央値4.0であった。DP3の意欲関心については、平均値4.1、中央値4.0であった。またDP1、2、3の各項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。以上の点から目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は2年次の必修科目であり、社会福祉士指定科目である。また本科目は「福祉専門科目」の中でも、社会福祉の基礎となる科目である。4. に記した学生の成績、自己評価より、内容は概ね妥当であったと考えられるが、成績下位層の理解度を上げられるよう、教授方法を工夫する必要がある。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 4. に記したように、内容は概ね妥当であったと考えられるが、成績下位層の理解度を上げられるよう、教授方法を工夫する必要がある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価を見ると、平均値4.1-4.3、中央値4.0-5.0であった。授業の質は概ね問題なかったと考えるが、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の項目に「少しそうでないと思う」と回答した学生が2名、「説明は理解しやすいものであった」の項目に「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目に「少しそうでないと思う」と回答した学生が3名いた。説明が十分に伝わっていない学生がいるため、全員が理解できるような丁寧な説明を心がけたい。 学習量の評価をみると、4, 5回以上の予習を行った学生が10.2%、4, 5回以上の復習を行った学生が20.3%、自発的学習を行った学生が59.3%であった。自発的学習については、「授業で学んだ内容と関連ある新聞や動画などを探し学びを深めた」「図書館へ行き、障がい者に関する知識を深めた」などの回答がみられた。今後も障害者福祉に関連する動画や書籍等を講義内で紹介し、自発的学習を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は2年次の必修科目であり、社会福祉士指定科目である。4. の学習達成度の自己評価、6. の授業の質評価に記したように、目標は概ね達成されたと考えられるが、本科目は「福祉専門科目」の中でも、社会福祉の基礎となる科目であるため、成績下位層の理解度を上げられるよう、次年度以降、さらに教授方法を工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
権利擁護を支える法制度	3	後期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は28名（回答率40.0%）であった。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」67.9%、「必修科目である」64.3%、「関心のある内容である」21.4%であった。社会福祉士・精神保健福祉士指定科目（必修科目ではないが）であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、相談援助に必要な成年後見制度とその知識の前提となる民法・行政法の内容を中心に、なるべく理解しやすく伝えるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価は、授業中の確認テスト、コメント、後期試験を用いた。素点の平均点は70.73点で、昨年度よりやや低下している。理想的レベル（90点以上）に達した者は4名、再試対象者は11名であった（ほか、出席数不足が4名）。 到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.0、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値がいずれも3.9であった。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」を除く他の項目の平均値も3.8-3.7を示しており、ほぼ昨年度並みであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考ええる。 よって、内容的妥当性には問題ないと考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値はともに4.5、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.1、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.0であり、昨年度よりやや上昇している。 授業以外の学習をしていない学生は18名で、昨年度よりやや増加している。授業の課題以外に学習していない理由として「ほかの教科の課題が多すぎた」、「配布資料が充分であった」、「何をすれば良いかわからなかった」などの意見が見られた。一方、授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は10名で、昨年度より減少している。具体的に取り組んだ学習として「レジュメをノートにまとめた」、「図書館で勉強した」、「授業の中で気になったことについて自分なりに調べた」などの意見が挙げられていた。 学生からの意見は、特になかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えている。授業以外の学習をいかに増やすかが、引き続き今後の課題となろう。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習	1	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は1年次の必修科目であるが、社会福祉士指定科目でもあり、2・3年次の「ソーシャルワーク実習」に向けた最も基礎的な知識・援助技術を学ぶ演習科目である。初年次生を対象としているものの、ソーシャルワークの展開過程やグループワークの展開過程、面接技術が内容に含まれるなど、ソーシャルワークの知識・技術が求められる演習科目である。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が100%、「資格取得に必要である」が27.3%、「関心のある内容である」が0.0%、「単位数を確保する」が9.1%であり、本演習に対する関心が低いことがうかがえる。 本科目では、ソーシャルワークの倫理や自己覚知、基本的なコミュニケーション技術の習得に重点を置きながら、ソーシャルワークのベースとなる視点・技術を身につけられることを目標として授業を展開した。また講義で十分に学んでいない、ソーシャルワークやグループワークの展開過程に関しては、基礎的な事例を用い、基本的な専門用語の確認も加えながら、授業を展開した。またグループワークを通じて、学生同士で学び合える演習ができるよう努めた。毎時間ごとに振り返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は80点、中央値77点であり、標準的な成績であった。学生の学習到達度の自己評価をみてみると、「自分なりの目標を達成した」の項目については、平均値4.3、中央値4.0であった。各項目をみてみると、DP1の知識理解は、平均値4.7、4.5、中央値5.0、DP2の思考判断は、平均値4.6、4.5、中央値5.0、DP3の意欲関心は、平均値4.5、中央値5.0、DP4の態度は平均値4.6、中央値5.0、DP5の技能表現は、平均値4.5、中央値5.0であり、全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。以上の点から、目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会福祉士の指定科目であると同時に社会福祉の基礎を学ぶ専門科目として位置付けられている。4. にも記したように、学生の成績、自己評価から、内容的妥当性はあったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 4. に記したように内容的妥当性はあったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価は、平均値4.1-4.8、中央値4.0-5.0であった。ただし、「説明は理解しやすいものであった」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。全員に理解しやすいような説明を心がけたい。 学習量の評価を見ると、4, 5回以上の予習を行った学生は36.3%、4, 5回以上の復習を行った学生は36.3%、自発的学習を行った学生は36.3%であった。学生の自由回答を見ると、「分からない単語を調べる」といった意見がみられた。講義内でキーワード等を示すことにより、さらに自発的学習を促していきたい。また担当教員への意見に、「自分の目で社会福祉士の仕事を見たことがなく分からないことばかりであるのに実践をさせるので難しいことや理解できないことが多かった。一番初めに社会福祉士が普段どのように仕事をしているのかなどの映像を見て仕事像を考えたかった」というものがあつた。次年度以降、社会福祉士の仕事をイメージしやすいよう、視聴覚教材等も用いていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は社会福祉士の指定科目であると同時に社会福祉の基礎を学ぶ専門科目として位置づけられている。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、教育目標は概ね達成されたと考える。次年度は4. に記したように、より学生にソーシャルワークをイメージできるような視聴覚教材等を用いていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習	1	後期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、ソーシャルワーク演習の体系、それぞれの位置づけについて理解した上で、1 社会や地域で起きている福祉的課題や問題の実情や背景、それらを抱えた人々（当事者）、2 社会福祉士の活動領域・場・具体的支援内容・役割、3 社会福祉士としての価値・倫理、4 自己覚知・他者理解、5 コミュニケーション技術について学ぶことを目的とし、授業を構成した。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。 ① グループワーク等を中心に、基礎的な視点(1～5に留意)に基づき、本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③ 講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。 ④ 本講義の特性上、福祉的な問題の理解や実際のコミュニケーション技術の方法等の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、本科目の平均値は4.2～4.6であった。到達度自己評価のうち、（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、（6）「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.6と最も高かった。3「授業の質評価」は平均値4.4～4.8であった。知識理解に関しては、相談援助に携わる上で、①福祉的課題や問題の実情の把握、②社会福祉士としての倫理と価値、③社会福祉士の活動領域・場・支援内容、④自己覚知・他者理解、⑤コミュニケーション技術に関する知識について捉え、技能表現にて捉えた知識を演習課題を通して表現する練習に取り組んだ。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤に基本的なコミュニケーション技術を理解できるように今後も努める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉の基礎的な知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、社会福祉士がどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2023年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。自己目標・職業選択に関する達成度が比較的低く、方法的妥当性の問題である。しかし、1年生後期の段階では今後の履修状況において学びながら、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んでの今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、(9)「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」、(10)「職業選択の参考になった」が4.2と全体数値よりも低かった。本年度は、地域社会における福祉的問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもったが、1年次生であるため具体的なイメージをもちづかったと考えられる。科目の性質上、社会福祉における基礎的な内容をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面において社会福祉士が社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。学生の意見として、授業での学びを深めるために、課題を提示し、その学びを整理するとともに、次年度の講義に生かしていきたい。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的评价と課題をお示ください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであることから、相談援助における基礎的知識の形成と基礎的なコミュニケーションについては概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、2年次のソーシャルワーク演習(専門)Ⅰにおいて社会福祉士が対応する事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習	1	後期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修科目であり1年生の全員が受講するが、学生の授業への関心・学習準備性にはばらつきがあると考えられる科目である。また、講義系科目で未学習の部分についても取り上げることになっているため、できる限りわかりやすい説明に心がけながら、ソーシャルワークの全体像をできる限り現実に近いイメージとして学生一人ひとりが描けるよう、取り上げる事例の内容を吟味し、徐々にソーシャルワークの詳細な部分に触れていくような順序を考慮して授業計画をたてた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」（DP1）において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う28.6%、わりにそうだと思う71.4%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う42.9%、わりにそうだと思う57.1%）、「思考・判断」（DP2）においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（かなりそうだと思う57.1%、わりにそうだと思う42.9%）「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う71.4%、わりにそうだと思う14.3%）、「関心・意欲」（DP3）においては「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う71.4%、わりにそうだと思う28.6%）、「態度」（DP4）においては「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う28.6%、わりにそうだと思う57.1%）、「技能表現」（DP5）においては「必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う85.7%、わりにそうだと思う14.3%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う71.4%、わりにそうだと思う28.6%）であった。本科目における教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は福祉専門科目の導入にあたる科目であり、必修科目である。カリキュラムの改編に伴い、講義系科目における未学習の部分を先行して演習でとりあげる内容が含まれるが、講義系科目で既習の内容と未学習の内容を踏まえつつ綿密に授業計画を立てることで学生のソーシャルワークに関する理解度を高めること目指していきたい。新カリキュラムにおいて実習開始が2年生からに早まったことを踏まえ、そのための準備性を高めるうえでも重要な科目となる。カリキュラムマップ上の位置づけからみて内容的に妥当であると考えが、さらに妥当性を高めるために、授業の運営については、毎年検討改善に取り組むことも必要であるとする。 ②DP行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の平均値は4.2～4.8であった。毎回の授業で提出されたワークシートの記述内容について、次の授業の始まりで共有し、様々な意見や視点が変わることで捉え方が変わることで、グループディスカッションにおいて多様な意見が出されることの重要性を伝えるとともに、他者の意見に耳を傾けることがさらにディスカッションの内容が発展している状況について評価することを大切にしたい。また、学生の中にはコミュニケーション場面での困難を抱えている学生が少なくないため、一人ひとりの様子を見守りつつ、個別のサポートも不可欠だった。授業の進め方の改善をさらにかさねていきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度自己評価の結果と学生の授業への取り組みや提出物から、教育目標は概ね達成できたと考える。演習科目が理論系科目の知識理解を促し、学生の学びを深める意欲を高めることにつながるよう、さらに改善に取り組みたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習	1	後期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ソーシャルワークにとって先ず自己を知ること、そして相手との信頼関係を如何に形成することが出来るかが最も要課題だと考える。その為、ソーシャルワーカーに求められる基礎的な知識と技術についてコミュニケーションを取りながら演習を進めた。 情報利用の項で、「この授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした」にほぼ全員が答えていたことに学生が演習に参加する姿勢を感じられた。1年生であり、専門的な学びに対する好奇心は大であると伺える。。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価の「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」が最も高く評価されており、さまざまな問題を抱えている人々のことを認識してくれたものと考ええる。「到達度自己評価」はほぼ平均に近く学びの成果であると評価できる。ただ、図書館、インターネットの活用がなかったことは学び方に課題を残した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

「到達度自己評価」の結果と「受講動機」からもわかるが、資格取得をめざし専門職となるべく目標に向かって行こうとした動機と熱意は感じられた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

演習内容が難しかったと感じる学生がいたことから、毎回の演習終了時に確認していくようつとめたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

学生一人ひとりと接し考えを聞きながら演習を行う中で、将来を見つめて取り組んでいたことは実感でき評価できるものだと感じられた。今後演習教育で指導を続けていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	中川 美幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習	1	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	まずは演習に慣れてもらうように、身近な事例なども用いながら、個人ワークとグルークワークという構成で授業を行った。また、最後に質問や感想を記入してもらい、質問や感想から再度全員で共有しておいた方が良いことなどは、翌週の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達自己評価は3.9～4.7、授業の質評価は4.5～4.9であり、目標は概ね達成された。また、授業で出てきた言葉を調べたり、予習に時間を取った学生も一定数いたことから自己学習にもつながったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価や学習量の評価、授業の質評価から内容は妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価（4.5～4.9）や自由記述で「福祉への学びがより深まった」などから、今の進め方で妥当であったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業の進め方は今のやり方を基本としながら、さらに学生が演習に興味を持ち、理論と実践が少しでも身近に感じられるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（2年次対象・選択）の1つであり、ソーシャルワーク（専門）Ⅰ・Ⅲ・Ⅳと連動し、教員4名のオムニバス形式で開講している。主な内容は、各教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、医療福祉、学校福祉）における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている（自身は高齢者福祉領域を担当）。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（82.4%）、「必修科目である」（82.4%）が見られ、「関心のある内容である」は5.9%にとどまった。この点を踏まえ、授業の展開においては、学生の関心・意欲等を高めるための実践的な支援事例を提示した。また、意見発表やプレゼンテーションの機会を多く設け、学生の主体的な学習態度の涵養に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成度について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「思考判断」（DP2）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う52.9%、わりにそうだと思う29.4%）となっており、目標は達成されたと考える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う52.9%、わりにそうだと思う29.4%）となっており、これも目標は達成されたと考える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う52.9%、わりにそうだと思う29.4%）であり、目標は達成されたとと言える。「技能表現」（DP5）は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う58.8%、わりにそうだと思う23.5%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う58.8%、わりにそうだと思う23.5%）であり、これも目標は達成されたと考える。 以上のことから、全体として教育目標は達成したと考える。しかし、学習量の評価において、「予習」（0回77.8%）、「復習」（0回55.6%）、「授業課題以外の学習への取り組み」（していない58.8%）が示されており、学生の主体的な学習態度の涵養という点では課題が残ったと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 学生の到達度自己評価による教育目標の評価結果（「達成された」）から、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP,カリキュラム上の位置づけ 本科目はソーシャルワークの専門的視点、態度、知識、技術を実践的に修得するものである。これらの学びは同年度に開講されるソーシャルワーク実習Ⅰの展開において不可欠であり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教育目標は「達成された」と評価できる一方で、学生の学習量の確保や主体的学習態度の涵養という点では課題が残った。既述の通り、本科目はソーシャルワークⅠ・Ⅲ・Ⅳと連動しながら各専門領域の援助実践を学ぶ科目である。今後は明らかとなった課題について担当教員と共有し、改善策を検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度、科目の教育目標は達成された。引き続き他の担当教員間での連携を十分に図り、教育効果の高い授業内容・方法について検討していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次の社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目である。 学生の受講動機をみると、「必修科目である」が77.8%、「資格取得に必要なである」が100.0%、「関心のある内容である」が44.4%、「単位数を確保する」が22.2%、「GPAをあげる」が11.1%であり、資格取得のための履修であることがうかがえるが、例年よりも関心を持って履修している学生も多かった。 本科目では、福祉的課題を抱えた人々に対する支援事例を活用し、ソーシャルワークの展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得に向けた実技指導を行う。本演習は、2年次の学生が対象であるため、ソーシャルワークに関する基礎的な知識や技術等を再確認しながら、実習で実践的に用いられるソーシャルワークの視点や職業倫理、援助技術を習得できるような内容となるよう工夫した。また、ソーシャルワークの実践ではチームアプローチが基本となるため、できるだけグループワークを実施して、学生同士の意見交換から課題解決を導けるような演習となるよう工夫した。毎時間ごとにふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は、84.1点、中央値は85点であり、優秀な成績であった。学生の学習到達度の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」の平均値4.2、中央値4.0で、目標は「達成された」と判断した。各項目をみると、DP2の「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値4.2、中央値4.0、5.0、DP3の「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.1、中央値4.0、DP4の「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が平均値4.0、中央値4.0、DP5の「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値4.1、4.4、中央値4.0、5.0であった。また全ての項目において、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。したがって、目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本演習は「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記同様、内容的に妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価の各項目は、平均値4.2-4.6、中央値4.0-5.0であり、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかったため、授業の質は問題なかったと判断した。 学習量の評価をみると、4, 5回以上の予習をした学生は44.4%、4, 5回以上の復習をした学生は44.4%、自発的学習を行った学生は44.4%であった。自発的学習に関する自由記述をみると、「疑問に思った単語について調べた」との回答があり、課題等の提示を通してさらに自己学習を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、概ね授業の目標は達成されたと考える。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでの相談援助系の科目を通して学んだことを踏まえて、1 いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景、2 課題を抱えた人々(当事者)の状況、3 ソーシャルワーカー(社会福祉士)による具体的な支援内容、4 ソーシャルワーカーに求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを本授業の目的とした。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。 ① グループワーク等を中心に、基礎的な視点に基づき、本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③ 講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。 ④ 本講義の特性上、福祉的な問題の理解や実際のコミュニケーション技術の方法等の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、（3）「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」、（4）「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、（5）「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」などの専門職を目指す上で必要な項目の平均値4.5と最も高かった。3「授業の質評価」は平均値が4.3～4.6の水準であった。 知識理解に関しては、相談援助に携わる上で、①いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景、②課題を抱えた人々(当事者)の状況、③ソーシャルワーカーによる具体的な支援内容、④ソーシャルワーカーに求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めた。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、ソーシャルワーカーの社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤に基本的なコミュニケーション技術を理解できるように今後も努める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉の基礎的な知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、ソーシャルワーカーがどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。4年次の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2023年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。自己目標・職業選択に関する達成度が比較的低く、方法的妥当性の問題である。しかし、3年生の段階では自分自身の将来の選択肢について、その専門性を高め、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んでの今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本年度は、地域社会における福祉の問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をグループディスカッション等をもって指導を進めていった。科目の性質上、社会福祉における知識・技術、価値、専門性をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面においてソーシャルワーカーが社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう促していききたい。学生の意見として、授業での学びを深めるために、課題を提示し、その学びを整理するとともに、次年度の講義に生かしていききたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉実践の展開を学ぶ位置づけであることから、相談援助における基礎的知識の形成と事例を通してみた福祉専門職としての実践の在り方については概ね達成できたが、地域や多様な生活場面に応じた実践をする上での相談援助技術の面で課題を残した。この点は、次のソーシャルワーク演習（専門）Ⅲにおいてソーシャルワーカーが対応する実践事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出ししていきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	中川 美幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	現場での事例を用いて、まず個人で考え、次にグループワークを行う授業のスタイルを取り入れた。グループワークでは、自分の考えを発現する力、他人の意見を聞く力、グループ内で様々な意見が出たときに、多数決でなく、話し合いでまとめる力がつくことを意識し、授業を進めた。さらに、ロールプレイも取り入れ、クライアント体験を行うことで、クライアントの気持ちを理解する機会も設けた。さらに、ワークを通して、価値や倫理、人の尊厳などにも触れる説明を行った。また、質問については、授業中や、ワークシートの感想を提出してもらうときに記入してもらおうよう伝え、質問があった場合には、翌週に全員で共有できるよう配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価4.3～4.8からと考え、そのように評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」などから妥当であったと考える。
---	---------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「到達度自己評価」などから妥当であったと考える。
--	---------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	自由記述で、「医療現場の事例をもとにたくさんの支援方法、主に声かけを学ばせていただきました」や「とてもためになる授業でした」などから授業の進め方などは今のままで行い、さらに学生が興味を持てるような工夫を行っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	3	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（3年次対象・選択）の1つであり、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと連動し、4人の教員によるオムニバス形式で開講している。主な内容は、地域を基盤としたソーシャルワークの支援事例の検討や地域福祉の計画、福祉サービスの評価等について教授するものである。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（87.5%）が最も多く、次いで「必修科目である」（62.5%）となっている。このことから多くの学生が社会福祉士の資格取得を意識した受講動機となっていると言える。一方で、「関心のある内容である」は37.5%であり、授業においてはこの点を意識して取り組んだ。具体的には、自身の地域との関わりを考えさせたり、地域やそこに存在する福祉課題を身近に感じられるよう実際に地域の場に出掛けたりした。また、グループワークやプレゼンテーションの機会を多く設け、主体的に授業に参加できるよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成度について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「思考判断」（DP2）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う25.0%、わりにそうだと思う50.0%）となっており、目標はある程度達成されたと考える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う25.0%、わりにそうだと思う50.0%）となっており、これも目標はある程度達成されたと考える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う25.0%、わりにそうだと思う50.0%）であり、目標はある程度達成されたと考える。「技能表現」（DP5）は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う25.0%、わりにそうだと思う37.5%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う37.5%、わりにそうだと思う25.0%）であり、これも目標はある程度達成されたと考える。 以上のことから、全体として教育目標はある程度達成したと考える。しかし、学習量の評価において、「予習」（0回50.0%）、「復習」（0回62.5%）、「授業課題以外の学習への取り組み」（していない87.5%）が示されており、学生の主体的な学習態度の涵養という点では課題が残ったと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 学生の到達度自己評価による教育目標の評価結果（「やや達成された」）から、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP,カリキュラム上の位置づけ 本科目はソーシャルワークの専門的視点、態度、知識、技術を実践的に修得するものである。これらの学びはソーシャルワーク実習（2年次、3年次）の展開において不可欠であり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教育目標は「やや達成された」と評価できる一方で、学生の学習量の確保や主体的学習態度の涵養という点では課題が残った。既述の通り、本科目はソーシャルワークⅠ・Ⅱ・Ⅲと連動しながら各専門領域の援助実践を学ぶ科目である。今後は明らかとなった課題について担当教員と共有し、改善策を検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度、科目の教育目標はやや達成された。引き続き他の担当教員間とも連携を十分に図り、教育効果の高い授業内容・方法について検討していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	3	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は3年次の社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目である。 学生の受講動機をみると、「必修科目である」が33.3%、「資格取得に必要である」が77.8%、「関心のある内容である」が0.0%であり、資格取得のための履修であることがうかがえる。本演習は学生にとって最後のソーシャルワーク演習（専門）となるため、これまで演習・実習で学んできた援助技術を総括できるよう、地域を基盤として、複数の課題を解決することが求められるような事例を用い、ソーシャルワークの理論と実践を統合化できるような内容になるよう努めた。 昨年度と同様、地域福祉の実践としてある自治会を中心とした地域づくりを含む事例を取り上げ、コミュニティソーシャルワークの視点を学ぶ内容とした。学生がイメージしづらい地域づくりについて、実際に地区を歩いて地域診断を行う演習や、地域住民を対象としたプログラムの企画立案・評価などの演習を取り入れ、実践的な内容になるよう工夫した。また、ソーシャルワークの実践ではチームアプローチが基本となるため、できるだけグループワークを通して課題解決を導けるような演習となるよう工夫した。毎時間ごとにふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は80.8点、中央値は83点であり、標準的な成績であった。学生の学習到達度の自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.4、中央値5.0であった。これらの点から教育目標は「達成された」と判断した。各項目については、DP2の思考判断が平均値4.4、中央値5.0、DP3の意欲関心が平均値4.6、中央値5.0、DP4の態度が平均値4.2、中央値4.0、DP5の技能表現が平均値4.4、中央値5.0であった。また全ての項目において、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。これらの結果より、目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本演習は「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記同様、内容的に妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では平均値4.4-4.7、中央値5.0であり、授業の質に問題はなかったと考える。ただし「説明は理解しやすいものであった」の項目に「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。全ての学生に理解しやすい説明を心がけたい。 学習量の評価をみると、4, 5回以上の予習をした学生は11.1%、4, 5回以上の復習をした学生は11.1%、自発的学習を行った学生は66.6%であった。自発的学習に取り組んだ学生の意見を見ると、「授業の課題」といった内容であった。課題の提示等により、自発的学習を一定程度促せたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、授業の目標は達成されたと考える。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	3	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでの相談援助演習科目を通して学んだことを踏まえて、①地域における総合的かつ包括的な援助のあり方、②地域福祉の基盤整備と開発に係る相談援助の方法、③社会福祉士による具体的な支援内容、④社会福祉士に求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを本授業の目的とした。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。 ① 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握の方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。 ② 地域福祉の計画について理解し、説明できるよう指導した。 ③ ネットワーキングの方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。 ④ 社会資源の活用・調整・開発の方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。 ⑤ サービスの評価の方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、平均値4.2～4.3であった。（4）「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、（8）「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、（10）「職業選択の参考になった」が平均値4.3と最も高く、専門職に求められる援助技術の修得に効果があったことがうかがえる。3「授業の質評価」は平均値・中央値ともに4.2～4.3の水準であった。 本科目は、相談援助に携わる上で、①地域における総合的かつ包括的な援助のあり方、②地域福祉の基盤整備と開発に係る相談援助の方法、③社会福祉士による具体的な支援内容、④社会福祉士に求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを目的に、演習課題を通して表現する練習に取り組んだ。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤により高度なコミュニケーション技術を理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門および実践の展開を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉士に求められる知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、社会福祉士がどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2023年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。自己目標・職業選択に関する達成度が比較的低く、方法的妥当性の問題である。しかし、3年生前期の段階では今後の履修状況において学びながら、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んでの今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、ほぼ平均値の水準であったが、本年度は、地域社会における福祉の問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもったが、遠隔対応であるため具体的なイメージをもちづらかったと考えられる。科目の性質上、社会福祉における基礎的な内容をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面において社会福祉士が社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう更に促していきたい。 本科目は福祉的課題を抱える当事者等の事例を取り扱うとともに、法律・制度・サービスといった広範な情報量を取り扱う性質があり、講義内容の要点を整理する必要性から、課題を通して講義の学びをまとめ、整理することに重点を置いた。本科目においても、課題の内容を整理し、次年度の講義に生かしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門および実践の展開を学ぶ位置づけであることから、ソーシャルワーカーによる地域支援の在り方（住民組織化、地域内の支援機関との連携・協働など）についての基本的な専門知識・技術の形成は概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、専門研究による各領域の指導を通して、社会福祉士が対応する事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出ししていきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	中川 美幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	3	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	自分の住んでいる地域をイメージしながら学習できるよう毎回内容を考えた。また、実際に街歩きを行い、地域再生を住民が行っている現場などを見学した。授業の進め方は個人で考え、グループで意見をまとめるスタイルで行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達目標が4.9であり、その他の評価でからも妥当だと判断したためそのように評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学習到達度自己評価の結果などから、内容は概ね妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価の結果などから、授業の進め方などは概ね妥当であるとする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「授業の質の評価」や「到達度の自己評価」などから授業の組み立ては今のままを基本とし、さらに学生が地域支援について興味を湧くような内容を検討していく。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目の一つであり、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前指導、事後指導、実習中・実習後のスーパービジョンを行う科目である。 特に、事前学習においては、児童福祉領域の実習で求められる知識・技術を確認し習得すると同時に、実習に向けての動機づけが高まるよう、授業を展開した。新カリキュラムとなり、2年次の実習、実習指導は専門科目の履修と同時並行となるため、児童福祉領域の実習で求められる知識の確認については既習の内容と未学習の部分とを考慮しつつ、授業の進行等にも配慮した。視聴覚教材による学習や意見交換・共有の機会を多くもつよう授業を構成し、これまでに福祉専門科目で学んできた様々な知識を実践的な場面と結びつけて理解し説明できるようになることに重点をおいた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	回答者総数は受講者数の29.4%学習と低い回答率にとどまったが、到達度の自己評価においては、「知識・理解」（DP1）において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う80.0%、わりにそうだと思う20.0%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う80.0%）、「思考・判断」（DP2）においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（かなりそうだと思う60.0%、わりにそうだと思う20.0%）「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う40.0%、わりにそうだと思う40.0%）、「関心・意欲」（DP3）においては「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う80.0%、わりにそうだと思う20.0%）、「態度」（DP4）においては「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う100%）、「技能表現」（DP5）においては「必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う60.0%、わりにそうだと思う20.0%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う60.0%、わりにそうだと思う20.0%）であった。本科目における教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP:行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記述したように、一定程度の達成状況にあると考えることができ、本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える ②CP:カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の実施に向けて展開される科目であり、実習に向けた具体的準備、実習に向けての動機づけを行い、準備学習を深めていくものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は平均値4.6～5.0であった。ソーシャルワーク実習Ⅰの実習指導者による評価においては、実習目標をある程度達成しているとの評価を得たが、実習指導者からのコメントとして、旧カリキュラムの実習と比較して「短期間であるため、学生の実習中の成長・変化にたどりつきにくい」ことに加えて、2年次の段階では思考力や知識を統合する力が十分に身につけていないことなどが指摘された。今後は準備学習を深めつつ具体的準備を進めていく中で、学生が実習に対する動機を高め、自己の十分な準備に支えられて実習に臨むことができるよう、授業の進め方をさらに改善したいと考える。また、学生一人ひとりが自己の課題に向き合い、3年次の「ソーシャルワーク実習Ⅱ」に向けて自己学習をさらに深めていけるよう、事後の指導における改善も重ねていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実習に必要な知識の習得、実習前の具体的準備を行い、実習後の振り返りを通して自己の課題を整理するという点から、本科目における教育目標はある程度達成できたと考えるが、上記6の課題が残った。さらなる改善、工夫に取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、社会福祉士指定科目（2年次・通年）の1つであり、ソーシャルワーク実習Ⅰ（2年次）の事前及び事後指導を行うものである。高齢者福祉領域と地域福祉領域を担当した。実習前の指導では、現場で必要となる知識・技術の教授や関連書類の作成指導を通して、学生の動機と意欲を高めた。また、多くの学生が初めての現場実習となるため不安や緊張の解消にも努めた。実習後の指導では、個別面談を通して実習で得た学びや気づき、課題等の振り返りを行った。さらに、実習期間中は巡回訪問を行い、学生への個別指導と実習指導者への面談を通して、実習状況の確認を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成されなかった
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う41.2%、かなりそうだと思う41.2%）となっており、目標を達成したと考える。「思考判断」（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う47.1%、かなりそうだと思う35.3%）となっており、これも目標を達成できたと考える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う41.2%、かなりそうだと思う35.3%）であり、目標をある程度達成できたと考える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う47.1%、かなりそうだと思う35.3%）となっており、目標を達成したと考える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う29.4%、かなりそうだと思う35.3%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う23.5%、かなりそうだと思う29.4%）となっており、目標はやや達成されなかったと考える。 以上、本科目の教育目標の達成については、各DP項目の達成度から全体としてある程度達成できたと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①D P 上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、全体として教育目標はある程度達成されており、本科目のD P 上の位置づけに問題はないと考える。 ②C P、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目はソーシャルワーク実習Ⅰの実施に向けた準備学習（事務手続き等を含む）と実習で得た学びや課題の整理・振り返りを行うものである。本科目のC P およびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習前の指導では、実習実施に向けた関連書類の作成、実習で必要となる知識・技術の教授、動機づけ等を行っている。こうした過程において、学生には主体的学習態度が求められるが、授業評価アンケートの「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」（58.8%）が見られた。また、30分程度の予習・復習については、「0回」がそれぞれ29.4%、41.2%となっており、主体的な学習意欲の涵養と言う点では課題が残った。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目における教育目標はある程度達成されたと考える。一方で、学生の主体的な学習態度を引き出すという点では課題が残った。今後は本科目で修得した知識・技術が実際の実習現場でどのように役立ったか/役に立たなかったか、実習後指導（個別面談、発表、レポート）が知識・技術の修得に十分寄与したかといった点での評価も必要と考える。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年に入る前に実習の領域を考え選択しているためか受講動機には「資格取得に必須」と回答する者が100%であった。実習先やそこで行われていることの具体的なイメージがまだ掴めないでいる為、現場でのことを多く話し、何をするのかをイメージし理解できるように指導することにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	回答者が少ないものの「到達度自己評価」各項目が4.3の回答であり教育目標は達成されたと考える。また、インターネットの利用や図書館の利用をして調べ学習をしていることがわかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価が高かったことは、学ぶことで実習領域への関心と理解が深まって来たものとする。自分から積極的に取り組む姿勢が感じられる回答であったと理解する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	旧カリキュラムでは実習は3年生からであったが、2年次からの実習が加わり、自分から積極的に取り組む姿勢を評価できるものであった。3年次での実習をより実のあるものとなるよう指導していきたい。
7. 総合的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総合的評価と課題をお願いします。	実習先についてのイメージが掴めないでいるため、「今後は現場の専門職からの話なども取り入れていけるようにしたい」と次年度の課題としたが実施できなかった。直接若しくはオンラインでの指導も検討したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前・事後および実習期間中の指導を行う科目である。事前指導ではソーシャルワークの視点形成、事後指導ではスーパービジョンを通した実践と理論との統合化を目標に展開した。2年次の学生であるため、障害者福祉に関する基本的知識・支援技術を伝えられるよう努めた。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が66.7%、「資格取得に必要である」が88.9%を占め、「関心のある内容である」は22.2%であった。また「単位数を確保する」が11.1%、「GPAをあげる」が22.2%と、必ずしも社会福祉士取得に意欲の高い学生のみが受講している訳ではないことを踏まえ、将来の進路を見定めていくことも目標に加えて、できるだけ実習やソーシャルワーカーの仕事をイメージ化できるよう、実技指導を行いながら授業を展開した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は86.1点、中央値85点で優秀な成績であった。学生の学習達成度の自己評価においては、「自分なりの目標を達成した」の項目が、平均値4.2、中央値4.0であった。これらにより目標は「達成された」と判断した。各項目をみてみると、DP1の知識理解が平均値4.2、4.3、中央値4.0、DP2の思考判断が平均値4.2、4.3中央値4.0、DP3の意欲関心が平均値4.3、中央値4.0、DP4の態度が平均値4.4、中央値5.0、DP5の技能表現が平均値4.3、4.4、中央値5.0であった。また全ての項目において、「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。このことから目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前・事後および実習期間中の指導を行う科目である。学生の資格取得へのモチベーションに課題はあるものの、「職業選択の参考になった」の平均値4.4、中央値5.0という評価をみると、本科目を通して学生が進路を定めていくことに貢献できた点で内容的妥当性はあったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 4. に記したように成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価の回答をみてみると、平均値4.1-4.7、中央値4.0-5.0であり、全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。このことから授業の質は問題なかったと判断した。 学習量の評価を見てみると、4, 5回以上の予習を行った学生が44.4%、復習を行った学生が55.6%であり、自発的学習を行った学生が44.4%であった。自発的学習に関する自由記述を見てみると、「課題に取り組んだ」との回答がみられた。講義内で課題や参考文献等を提示することにより、予復習や自発的な学習を一定程度促せたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前・事後および実習期間中の指導を行う科目である。4. の学生の目標達成状況、6. の授業の質評価に記したように、目標は達成されたと考える。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、社会福祉士指定科目（3年次・通年）の1つであり、ソーシャルワーク実習Ⅱ（3年次）の事前及び事後指導を行うものである。新カリキュラムへの移行後、本年度が最初の開講となり、高齢者福祉領域と地域福祉領域を担当した。実習前の指導では、現場で必要となる知識・技術の教授や関連書類の作成指導を通して実習への動機を高めさせた。実習後の指導では、個別面談を通して実習で得た学びや気づき、課題等を深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問を行い、個別指導及び実習指導者への面談を通して、実習状況の確認を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う50.0%、かなりそうだと思う35.7%）となっており、目標を達成したと考える。「思考判断」（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う64.3%、かなりそうだと思う14.3%）となっており、目標をある程度達成できたと考える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う57.1%、かなりそうだと思う7.1%）であり、目標をある程度達成できたと考える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う35.7%、かなりそうだと思う50.0%）となっており、目標を達成したと考える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う50.0%、かなりそうだと思う21.4%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う28.6%、かなりそうだと思う35.7%）となっており、目標をある程度達成できたと考える。 以上、本科目の教育目標の達成については、各DP項目の達成度から全体としてある程度達成できたと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①D P 上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、全体として教育目標はある程度達成されており、本科目のD P 上の位置づけに問題はないと考える。 ②C P、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目はソーシャルワーク実習Ⅱの実施に向けた準備学習（事務手続き等を含む）や動機づけ、実習で得た学び・課題の整理・振り返りを行うものである。本科目のC P およびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習前の指導では、実習実施に向けた関連書類の作成、実習で必要となる知識・技術の教授、動機づけ等を行っている。こうした過程において、学生には主体的学習態度が求められるが、授業評価アンケートの「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」（64.3%）が見られた。今後は、実習現場での学びをさらに深めるという観点から、学生が身につけておくべき知識、技術、態度等を具体的に提示し、主体的な学習を促していく必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標はある程度達成されたと考える。一方で、学生の主体的な学習態度を引き出すという点では課題が残った。今後は本科目で修得した知識・技術が実際の実習現場でどのように役立ったか/役に立たなかったか、実習後指導（個別面談、発表、レポート）が知識・技術の修得に十分寄与したかといった点での評価も必要と考える。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目の一つであり、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前・事後指導、及び実習中・実習後のスーパービジョンを行うものである。 児童福祉領域(児童養護施設・障害児施設を含む)でのソーシャルワーク実習を通して、相談援助の知識・技術を実践的に体得し、社会福祉士として求められる総合的に対応する力を高められるよう事前指導、事後指導、スーパービジョンを展開した。事前指導においては、実習施設で求められる援助技術や知識の習得とソーシャルワークの視点の形成、実習中及び実習後指導においては実践と理論の統合化を学生の主体的な学びと気づきの中から達成できるようスーパービジョンを実施することを心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について、学生の到達度自己評価から見ると、すべての項目において「かなりそうだと思う」の回答を得、平均点、中央値とも5.0であった。履修学生数のうち、回答率は25%にとどまっており、高い達成感を得た学生のみが回答したことが考えられるが、学生一人一人が実習を通して自身の課題と真摯に向き合い、後期実習では前期実習の反省と課題を活かして充実感と達成感を得られたこと、実習先の実習指導者からも前期実習と比較して後期実習では各学生が格段の成長を遂げていると高く評価していただいたことなどから、本科目における目標を達成したと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記述したように、学生の到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は「ソーシャルワーク実習Ⅱ」と連動して展開される科目であり、実習に向けた具体的準備、実習に向けての動機づけを行い、事前学習、学びの整理を行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては平均値5.0、中央値5.0が得られた。授業の予習復習や課題以外の学習等にも取り組んでいた。学生一人ひとりが実習でよい体験や学びを得ることができるよう、引き続き、実習前、実習後、実習期間中の指導とスーパービジョンの質の向上に取り組んでいきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標は概ね達成できたと考える。学生一人ひとりが対人援助職として目指したい姿を思い描き、さらに意欲をもって学びを深めていけるよう、今後も実習指導の質の向上に取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」が60.0%、「資格取得に必要である」が100%であった。医療における社会的な問題を抱える人々は多く、ソーシャルワークはその人々の生活課題を解決調整する役割について感じ、考えることを学生らに求めたことから、実習での経験で随分と成長したと評価できる。 実習指導では、医療機関での実習に必要と思われる知識と技術について参考資料の提示とともに講義を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①「到達度自己評価」「授業の質評価」の項目は、ほぼ4.0前後ではあったが教育目標は達成されたと考える。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が4.0以上を得ている点は学生の成長と伺える。 ②図書館の利用が少なく、インターネットの利用は高い傾向にある。主体的に調べる取り組みは評価できる。 配属先の情報については、学生各自で過去の先輩らが同じ施設で実習した時の資料を参考にしたり、インターネットなどを活用し調べさせるように指導した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	医療機関は実習先として他の領域と同じ扱いではあるが、生命を扱う場としての特殊性があると説明し、受験資格を得る為の実習態度であれば他職種の実習生と比較され注意、指摘を受けることになる指摘し緊張感と積極性を持つよう指導した。そのことが「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が4.0と高く「到達度自己評価」に表れDPは達成できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	医療機関にソーシャルワーカーがいる意味、他の専門職と共に協働して患者への関わりをすることを、実務家教員の立場から学生らに考えさせ、具体的な指導を行ってきた。その成果は学生個人に出ており、「職業選択の参考になった」とする回答が高く出ていることにも意味があると考ええる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生一人ひとりが、実習（現場）において学んできた専門職の方たちと同じ場所で緊張しながら学んだ経験は大きかったと思われる。教員の評価は、実習に出て成長したと評価している。次年度以降も実習を元に学びを深め将来的な方向性を見定めてもらいたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」と連動して展開される科目である。授業は実習前指導、実習配属中の指導、事後指導からなり、事前指導ではソーシャルワークの視点形成、事後指導ではスーパービジョンを通した実践と理論との統合化を目標に展開した。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が85.7%、「資格取得に必要である」が85.7%、「関心のある内容である」が14.3%、「単位数を確保する」が14.3%となっており、資格取得のための履修であることがうかがえる。 実習前指導では、障害種別に用いられている支援技法の実技演習を取り入れたり、事後指導では学生が担当した事例を用いた事例検討会などを実施したりして、できるだけ障害者施設での支援実践を想定した指導を行えるようにした。また今年度も感染症による調整を行いながら実習先と密に連携を図り、実習が円滑に実施できるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の最終的な成績の平均値は88.2点、中央値88点で、非常に優秀な成績であった。学生の学習達成度の自己評価においては、「自分なりの目標を達成した」が平均値4.6、中央値5.0であった。以上の結果から、目標は「達成された」と判断した。各項目については、DP1の知識理解が平均値4.9、4.7、中央値5.0、DP2の思考判断が平均値4.7、中央値5.0、DP3の意欲関心が平均値4.7、中央値5.0、DP4の態度が平均値4.5、中央値5.0、DP5の技能表現が平均値4.7、中央値5.0であった。全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」と連動して展開される科目として位置付けられている。4. に記載したような成績、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 4. に記したように成績、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価については、平均値4.6-4.9、中央値5.0であり、全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。このことから、授業の質については問題なかったと判断した。 学習量の評価については、7～10回以上の予習をした学生が42.9%、7～10回以上の復習をした学生が28.6%、自発的学習をした学生が85.7%であった。自発的学習を行った学生の自由回答を見てみると、「関連する書籍を読んだ」等の回答があった。実習の経験をもとに、自発的学習を促すことが一定程度できたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」と連動して展開される科目である。4. に記したように成績および学習達成度の自己評価、授業の質評価から、概ね授業の目標は達成されたと考えられる。次年度以降も学生が実習を通して自己の成長を実感できるように指導を行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉制度論	2	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者等)の生活支援の意義と特徴及びそれに関する制度と施策についての理解を深めるとともに、さまざまな活動領域における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目的に本授業を構成した。本年度は対面授業を軸に実践事例・福祉教材などを用いたり、社会的な課題について考察することで、メンタルヘルスの課題を抱える当事者の生活支援システムについての知識と支援内容の基本的な理解を深めた。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。 ① 講話法を中心とした講義の展開が主であった。地域で生活するメンタルヘルスの課題を抱える当事者及び家族、支援者等に関する横断的な理解が求められる。そのため3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③ これまでの講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。 ④ 本講義の特性上、地域で生活するメンタルヘルスの課題を抱える当事者、家族、支援者、各種法制度等の広範な理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本年度は平均値が3.8～4.6と全員が標準的レベル及び理想的レベルに概ね達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が平均値4.6が一番高かった。3「授業の質評価」は平均値が3.8～4.6の水準であった。 知識理解に関しては、地域福祉の観点からメンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える知識について問うものである。精神保健福祉に係る法制度、サービスについては、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士・精神保健福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、メンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える法律、制度、サービスを理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理したり、グループ討議等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「精神保健福祉関係科目」では、精神保健福祉の専門を学ぶ位置づけであり、選択科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目はメンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える支援の在り方、諸制度やサービスの仕組み等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による法制度・サービスの動向を注察する必要があるが、2023年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、メンタルヘルスの課題を抱える当事者及び家族への支援や地域生活支援上の諸制度・サービスの表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.8と全体数値よりも低かった。本講義は、講義形式により、メンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える知識について学ぶ機会を中心においたため、事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、「精神保健福祉関係科目」では、精神保健福祉の専門を学ぶ位置づけであることから、精神障害者に対する地域支援に求められる基礎的知識の形成については概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、3年次の精神保健福祉の関連科目(演習活動や現場での実習体験等)を通して、学生自身の主体的な学びを促し、精神保健福祉士に求められる倫理と価値、知識や技術を学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り、学生自身の考える時間をとること、学生が体験的に捉えた学びを基に、コミュニケーションを図ることで、学生自身の学びを深めていきたい。そして、主体的な学びを深めていくためには、復習課題を意識的に提示する。適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の原理Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が73%であり、「資格取得に必要である」が74%、「関心のある内容である」が27%であった。精神保健福祉士を目指すものにとって基本的な知識を得る教科であるが受講動機として「関心」は低かった。実践がイメージ出来るような事例を豊富に取り入れながら授業を行い、実践で役立つよう要約や記録の機会を多く設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成度自己評価によると全体的に平均値4前後であり、知識の確認や専門分野の学びを深めることは出来ている。成績の平均はAであり、全体的に出席率や参加、貢献度、試験結果は良好である。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が3.7と最も低い評価であるが、本教科の中では要約することや、自己学習を深めることを重視し、交流の時間が短かったことが影響している。今後の授業では意見交換やグループワークを導入し、相互の学びの時間を設けたいと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	C P、カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は資格取得に必要な「選択科目」であり、精神保健福祉に関する援助の基盤となる知識を高める教科である。学生からの感想では「精神保健福祉に関する関心が高まった」とあり、学習達成度の自己評価からみても、D P、C Pともに内容は妥当であるとする
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について「評価基準が明らかである」、「学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」、「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、答える機会が作られていた」は4以上と一定の共通理解がはかられていたが、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」がやや低い。前述の通り意見交換やグループワークの時間は多く設けなかったこと、要約や自身で学びを深める時間を意識的に設けたことは、体感として現れていると考える。学習量の評価では、自主学習に取り組む機会を設けることが出来なかった様子がかがえた。評価基準を明確に示し、学生が自主的に考察し自学に取り組むことが出来るよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉の基本的知識を「学ぶ」時間と、学んだことを要約し記録する時間を多く設けたことから、学生の知識向上につながったと考える。しかし、得た知識や考察を交流する場面を設定することが出来なかったことは課題である。以上のことから、授業の中での学びあいの時間を取り入れるよう努めていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワークの理論と方法（専門）B	3	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機をみると、最も高い数値を示したのが「資格取得に必要である」の75.0%であり、受講生の多くが資格取得を目的とした履修であることがうかがえる。本科目が精神保健福祉士国家試験受験資格に関する科目であることから、授業では、国家試験の出題傾向を踏まえつつ、できるだけ養成テキストに沿った内容で進めた。また、必要に応じて実践事例を紹介することで、授業内容の実践的理解が深まるよう努めた。また、適宜リアクションペーパーを用いて学生の授業理解度を把握するよう努め、質問については、次回の授業時に解説したり、補足資料を配布したりするなどしてフィードバックを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、定期試験、レポート、授業への参加度を踏まえて総合的にを行った。その結果、全体の成績は平均86.8点であった。学生の到達度自己評価「（1）自分なりの目標を達成した」の項目では、平均値4.1点（かなりそうだと思う42.0%、わりにそうだと思う25.0%、まあまあそうだと思う33.3%）であり、目標は達成されたと考える。「知識理解」については、「（2）知識を確認したり、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.1点、「（3）事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.2点であり、目標は達成されたといえる。「思考判断」は、「（4）自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値が4.1点、「（5）自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値が4.1点であることから、目標は達成できたと考える。また、「意欲関心」についても、「（6）自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.3点であるため、目標は達成できたと考えよう。「態度」については、「（9）職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が4.1点であるため、目標は達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「精神保健福祉関係科目」において精神保健福祉実践の展開を学ぶ位置付けである。授業準備の欄にも示した通り、学生の受講動機は約75.0%の学生が資格取得を目的としたものであったが、受講態度や課題等への取り組み状況から、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域への高い興味や関心が感じられた。また、学生の自己評価や成績評価から一定程度の成果が得られたことから、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、「（3）説明は理解しやすいものであった」の平均値が4.3点（かなりそうだと思う58.3%、わりにそうだと思う2.5.0%、まあまあそうだと思う8.3%、少しそうでないと思う8.3%、全くそうでないと思う0%）であり、説明の分かりにくさを感じた学生がいたことが示された。この点については、説明方法や配布資料の見直し、改善を行い、学生の授業理解度の向上に向けた取り組みを行っていきたい。また、アンケート結果から、授業課題以外の学習の取り組み方が分からなかったとの意見があったことから、その点を考慮した工夫も必要と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「精神保健福祉関係科目」において精神保健福祉実践の展開を学ぶ位置づけから、教育目標の知識理解、思考判断、意欲関心、態度については達成できたと考える。他方、授業内容（主に授業課題以外の学修の取り組み方、学生への説明方法、配布資料）について見直しを要する点も明らかとなったことから、次年度に向けて改善を行い、授業の質的向上に努めていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	三木 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神医学と精神医療	2	後期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2023年度は、2022年に精神科疾患の診断基準が大幅に変更となったこと、同年に精神保健福祉法も改定されたこともあり、これらの新しい知見を授業に反映することに重点を置いた。また従来通り、教科書では伝えることができない、臨床場面での対応を具体例を多く取り入れることを行った。こうした項目については授業ごとに補足資料を作成した。昨年もこうした試みが有効であったため、本年もこうした方針を継続した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業の評価としてレポート提出を課したが、当初意図した内容を十分反映したものがほとんどであった。出席も概ね良好であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	今後、精神科に限らず福祉領域で仕事をしていく上で、必須の知識である。臨床的な感覚や最新の知識を維持していくことが求められている分野でもある。学生の理解度からも妥当な内容であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質に関しては十分なものが提供できたと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	次年度も同様の方針で授業を展開する予定である。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）A	2	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、受講学生は、全員が精神保健福祉士レーンである。精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、1年生時や2年生前期において受講済みの精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更には精神保健福祉士レーンで初めての演習グループであることも十分に考慮をして講義を展開させた。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、北九州市における精神保健福祉社会資源マップの作成をグループ化して行うことを事前に知らせ準備させた。毎回講義のレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。 リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、初めての精神グループでの演習で、仲間との理解も深まったし精神に進んでよかったと思ったや、次年度からも精神保健福祉関連の講義が楽しみです等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士のレーン選択の学生であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものを感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が、他の項目と比較すると低かった。その場面設定を行い、実際にグループ化して社会資源マップを作成する作業を行った。2年生になって初めての自分の専攻の演習であったので、なかなか慣れていないということもあったかもしれないが、可能な限り今以上に展開できるように、次年度以降も工夫をしていきたい。また、昨年度は、調査の作業を課したのでインターネット上での検索は多く、残念ながら学術データベースの活用が殆どなされてなかった。今年度は利用の仕方からのインフォメーションを行い、積極的に活用できるよう指導をした。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、忙しかったという回答があった。時間の作り方に関しても、引き続き具体的な方法を提示するなどの指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。1年次や2年前期での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、初めての専攻のグループであるので、前半部分は相談援助の基本的なことの復讐も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は、実際に援助支援をする時に必要なものに理解を深めさせるために、地元の精神保健福祉の社会資源マップの作成をグループ化して分担で課した。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、ロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行って、良い意識づけはできたと思う。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めることができたと感じられる。次年度も引き続き、予習復習、学術データベースの利用方法に関しても、具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）B	3	通年	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。 リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとっても役に立ったや、幅広く福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見での内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目が他の項目より平均点が高かった。可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、引き続き次年度も実施したい。学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、昨年度に引き続き具体的に指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行った。3年の開講科目という点から、ある程度の専門知識を持ち合わせており、教科書に沿った事例検討を中心に実施し、そのグループワークでの検討やパワーポイントを使用しての発表等実施した。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めた。次年度も予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）B	3	通年	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、①精神障害者の生活や生活上の困難について把握すること、②精神保健福祉士に求められる相談援助に関する知識と技術を習得すること、③専門的援助技術として概念化し理論化し、体系立てて理解できることを念頭に置き、授業を行った。精神保健医療福祉領域における様々な事例について、その支援内容や方法をグループで検討することで、他者と協働する力、課題解決する力を培うことができるよう工夫した。また、学生が精神保健福祉士としての援助の思考過程をイメージできるよう、必要に応じて助言やフィードバックを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、授業への貢献度、レポートを踏まえて総合的に行った。その結果、全体の成績は平均92.5点であった。学生の到達度自己評価「（1）自分なりの目標を達成した」の項目では、平均値4.0点（かなりそうだと思う50.0%、わりにそうだと思う0%、まあまあそうだと思う50%）であり、目標は達成されたと考える。「知識理解」については、「（2）知識を確認したり、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.0点、「（3）事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.0点であり、目標は達成されたといえる。「思考判断」は、「（4）自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値が4.0点、「（5）自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値が4.0点であることから、目標は達成できたと考える。また、「意欲関心」についても、「（6）自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.0点であるため、目標は達成できたと考えよう。「態度」は、「（9）職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が4.1点であるため、目標は達成されたと考える。「技能表現」については、「（7）自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値が4.0点、「（8）コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が4.0点であることから、目標は達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「精神保健福祉関係科目」において精神保健福祉実践の展開を学ぶ位置付けである。学生の受講状況から、精神保健医療福祉領域への高い興味や関心が感じられ、授業にも意欲的に取り組む姿勢がうかがえた。学生の自己評価や成績評価から一定の成果が得られたことから、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、「(2) 期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値が4.8点、「(1) テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「(3) 説明は理解しやすいものであった」「(4) 授業中に意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会がつけられていた」「(5) 口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値がいずれも4.5点であったことから、授業運営については一定の質は確保できたと考える。学習量の評価をみると、予復習を継続的に取り組んだ学生は少なく、課題を残す結果となった。今後、学生の授業準備性を高めるための工夫や取り組みを行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	アンケートの結果から、本科目の教育目標はおおむね達成できたと考える。 一方で、学習準備性の面での課題が示された。学生が授業以外でも主体的かつ自発的に学ぼうとする意欲を高めることができるよう工夫や改善を行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導 A	3	通年	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を、また、シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。更には、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件等々を詳細に説明した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。 リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得に課せられた精神科医療機関実習の事前事後指導の科目である。3年次の精神科医療機関での実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等をしながら医療機関実習に臨むことができている。実習終了後のグループワークの中でも振り返ることができしており、更には次年度の実習Ⅱの目標も、ある程度立てられるようになっている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	3年次のソーシャルワーク実習Ⅰ（精神）に対しての、事前事後指導という位置づけである。本実習Ⅰを通して学んだことを、個別体験から総合的包括的な理解へと広げるための科目設定である。従って、内容的には妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていたの項目と、質問の受付答える機会の提供の項目については高得点だった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような、演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。実習事前事後指導については、情報収集や振り返りをさせ、各自の実習目的を明確化することを進めていった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生のみが受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができたのではないかとと思われる。次年度も、引き続きこの点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
心理学と心理的支援Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」77.6%、「資格に必要である」42.9%、「関心のある内容である」14.3%、「単位数を確保する」10.2%、「GPAをあげる」2.0%、「友人が履修している」6.1%であった。本科目は、社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家資格の受験資格に必修の科目であるため、「必修科目」「資格に必要」と答えた学生の比率が高い。 1年次科目であるため、まずは資格取得科目として受講してみようかという学生が中心である。また、本科目は前期の心理学と心理的支援Ⅰの続きであり、学生が初めて触れるような心理学の基礎的理論や研究を扱うことから、できるだけ具体的な例を挙げて、専門性のある概念や言葉に親しみ、関心を深めるようにしている。 毎回、授業前に前回の復習として、授業の流れを振り返り、繰り返し説明することで、知識の定着を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76.0点であった。80点以上の理想的レベルの者の割合は35.0%、60点～79点の標準レベルの者の割合は33.0%であった。追試験の成績の平均値は85.0点であった。追試験受験者のうち80点以上の理想的レベルの者の割合は75.0%、60点～79点の標準レベルの者の割合は25.0%であった。再試験の学生も出席した者はすべて標準レベルの成績を収めた。殆どの学生が標準～標準以上のレベルの目標達成ができたと考えられる。 学生の自己評価においても「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点は4.4点と高かった。また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均点は4.1点であり、実感のある学びができたと考えられる。「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」の項目も平均点は4.3であり、授業を通して学ぶ意欲を引き出すことができたことが伺える。 「自分なりの目標を達成した」と感じた学生が平均値4.0であり、授業の内容の充実と学生の努力により達成されたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、卒業必修ではないが、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験必修科目である。また、それらの資格に加え、養護教諭、保育士など対人援助職としての専門性を養うには、人のこころの理解は基礎である。したがって、1年次の心理学と心理的支援の学習は重要でかつ妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において「評価基準は明らかであった」「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.5であった。また、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.3であり、教授内容を質、量ともに概ね適切に伝達することができたと考えられる。 予習をした学生は、44.9%であった。復習をした学生は75.5%であった。復習に力を入れて取り組んだ学生が多かったと考えられる。 授業以外の課題に取り組んだ学生は38.8%であった。授業以外の課題に取り組まなかった学生もまた「毎回の課題をこなすことが、この授業の学習においては重要だと考えた」「課題で手一杯でしたが、頑張りました」「課題が最適だった」などと記述しており、自主的に予習復習に取り組んでいる様子が見える。 授業以外の課題に取り組んだ学生は「教科書で講義の振り返りを行った」「前期の授業と照らし合わせた」など学習内容の定着を図ったり、「授業でわからなかった専門用語をインターネットで調べた」「状況があまりうまく想像できないことについて調べた」「国家試験の過去問（を解いた）」など、学習したことさらに知識を広げる行動をとったようである。図書館の利用者が4.0%、インターネットの利用者が16.3%であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成について、概ね達成できた。 学生は、授業内容を基礎とし、課題に取り組んだり、教科書や他の心理系科目の内容と対応させたり、インターネットや図書館を利用してさらに知識を広げるなど、自らの習熟度に合わせた学びの方法を工夫している様子が見えてきた。引き続き学生の自主的な学びを引き出す授業展開を計画し、学生同士で積極的に学びの姿勢を共有し合うような声掛けを行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期の現代の精神保健の課題と支援Ⅰを引き継ぐ科目で、精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する必須科目、かつ教職の必須科目であることから、他の受験資格科目と、教職科目との関連性を考慮して講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、1, 2年次での開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明し、教職課程における本講の重要性を述べた。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、定期試験の件、社会福祉士の実習期間に伴う補講の件、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、関連キーワードの確認テストを行った。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。 リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が約4割を占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、教職との関連性も含め、幅広くメンタルヘルス全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、精神保健福祉士の国家資格を取得するためと、教職必修の科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、精神保健福祉士の受検資格は取得し国家資格も取得するけれど、精神方面には進まないという学生や、教職免許は取得するも、教育方面には進まないという学生、の受講もあったが、メンタルヘルス領域に興味があるということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の平均点が、他の項目より低かった。可能な限り昨年度以上に事例等の導入を引き続き検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を引き続き検討していくことを次年度の課題としたい。学術データベースの利用に関しても殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも引き続きの検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、引き続き指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目、および教職必修科目ということで、精神保健福祉士養成レーンと養護教諭レーンの学生の受講が多かった。2年次での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、2年次に受講していない学生（養護教諭レーンや、メンタルヘルス領域に関心を持つ者）も受講していることから、前半部分は前期の復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度も引き続き予習復習に関して具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。 ②「教職コアカリキュラム」に、教育の原理的内容が含まれていることから、教育思想、教育制度の歴史をまず教授し、次いで現代的な問題について取り組んでいる。 ③1年生ということもありまだ教職への意識が強固とは言えない。したがって、教職を意識しつつ、市民的教養という側面からも教育・学校・子どもについて、知識や関心を持つように授業の構成を考えた。 ④学生同士の意見交換を大事にしたいと思い、グループワーク、ディベートを取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価は、授業への参加具合、小テスト、レポート提出の合計点で行った。 ②90点以上0名、80点以上90点未満7名、70点以上80点未満6名、60点以上70点未満15名、60点未満8名であった。突出した学生がいなかったこと、60点代の学生が一番厚く、不合格者も8名いたことを考えると、学生の本科目に向き合う姿勢が甘いと言わざるを得ない。 ③今回から、筆記試験（小テスト）を導入したために、バランスよく評価できたのではないかと考える。 ④グループワークに慣れていない面は見られたが、ディベートでは熱心な討論が行われた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけ 本科目は教職課程の科目であり、ほぼどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。 ②DPについて 教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回は、これまでの学生の指摘を踏まえて発言などに留意をしたためか、特に否定的なコメントはなかったと判断する。基本的には毎回の授業後の感想によってその時々での学生の評価を重視している。授業についての指摘があれば、その正当性の有無にかかわらず次回にフィードバックしている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①現在の日本の学校教育において、急速にその内容と方法に変革が迫っていると感じている。様々な答申や通知などを受けて、急ぎ対応せざるを得ないものもある。常に新しい情報に接することが重要であるとする。 ②座学での学びには限界があり、アクティブラーニングを取り入れて主体的な学びとなるように構成をさらに工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	○全学科：平均点80.4点、秀5人（8.6%）、優32人（55.2%）、良13人（22.4%）、可7人（12.1%）、不可1人（1.7%）。SD8.30。 ○福祉学科（昨年度）：平均点83.3点、秀10人（21.7%）、優24人（52.2%）、良9人（19.6%）可2人（4.3%）、不可1人（2.2%）。SD8.76。 ○福祉学科（本年度）：平均点81.5点、秀3人（7.9%）、優23人（60.5%）、良9人（23.7%）可3人（7.9%）、不可0人（0.0%）。SD7.20。 ○本年度は出題難易度が上がっているが（75点程度を想定）、平均点は満足できる。秀の割合が低下し、優・良・可がそれぞれ増加している。不可はいなかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○昨年度の改善目標に挙げたように、試験問題は昨年度と比較して記述式問題および思考力を求める選択式問題を増やした。 ○授業内容は質・量ともに昨年と同程度であった。 ○本年度は次の2点に取り組んだ。（１）レジュメにおける事例や用語解説を充実させた。（２）オンライン授業で活用されたクラスルーム機能を維持するため、資料の提供などを充実させた。（３）レジュメのデザインを読みやすいものに修正した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○本年度は平均点を75点程度に想定した試験問題を作成しており、それを越える結果となった。知識の定着については満足できるが、思考を求める問題（図の読み取り問題など）について、より多くの学生が正解できる学力の定着を目指したい。 ○不可の学生がゼロになったことは評価できる。 ○試験問題については本年度と同程度の難易度、測定基準を実施したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教育課程の歴史的変遷による基礎的理解を深める部分と、現在の学校教育における教育課程の実践の部分の二つに大きく分けて授業を組み立てた。 ③特に後半は、この30年ぐらゐの教育課程の変化を踏まえて、学習者の主体的な学習を構築するという観点から、さまざまな答申や文書を検証し、また学生たちが自律的に教育課程を考えられるような実践を行った。 ④学生たちの意見交換を大事にするためにグループワークを積極的に取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価は、2度の小テストとレポートの合計点で行った。基礎的な知識を定着させる意味もあり、筆記試験を実施した。 ②成績は、90点以上が1名、80点以上90点未満が10名、70点以上80点未満が10名、60点以上70点未満が18名であった。全体として低調な結果となった。不合格とはしなかったが、それに近い成績の学生が複数いたことは今後の課題である。 ③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題について調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的まじめに取り組んだと思われる。しかし、こうして獲得した知識を具体的な実践に落とし込むことはまだまだ不十分である。 ④グループワークなどのアクティブラーニングを多く取り入れたが、教職課程も2年目となることもあり、学生も慣れてきたように思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は教職課程の科目であり、ほぼどの大学にでも共通するカリキュラムマップに沿っており、内容的な妥当性については問題ないとする。 ②DPについて 教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的ではない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回は、これまでの学生の指摘を踏まえて発言などに留意をしたためか、特に否定的なコメントはなかったと判断する。基本的には毎回の授業後の感想によってその時々での学生の評価を重視している。授業についての指摘があれば、その正当性の有無にかかわらず次回にフィードバックしている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①現在の日本の学校教育において、急速にその内容と方法に変革が迫っていると感じている。様々な答申や通知などを受けて、急ぎ対応せざるを得ないものもある。常に新しい情報に接することが重要であるとする。 ②座学での学びには限界があり、アクティブラーニングを取り入れて主体的な学びとなるように構成をさらに工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	前期（後期）	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては「資格取得に必要である」82.8%、「必須科目である」51.7%、「関心のある内容である」13.8%であった。 これらのことから、授業のオリエンテーションを丁寧に行い授業への関心が高まるように工夫をした。また講義を通して基礎的な知識が定着できるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。 ②授業では、保健教育の授業の基礎（学習指導要領における保健教育の位置づけ、指導案の作成方法など）を講義と演習を通して行った。さらに、学生が題材を決定し学んだことをもとに模擬授業の指導案を作成し、10分間の保健指導を行った。また、4年生が実施する模擬授業を参観し、授業に対する具体的なイメージができるように授業内容を工夫した。模擬授業をおこなうだけでなく、自己評価、他者評価を行い授業への関心意欲を高め、また授業の質が向上するように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な平均値は80.0点（±9.7）であった。理想的レベル（80点以上）は19名であった。 目標別の達成度は知識・理解に関しては、80.0%、思考・判断80.0%、意欲・関心81.0%、技能・表現80.0%であった。知識・理解では、基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.4中央値5.0）、また、自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.3中央値5.0）、であった。 さらに、学生が行った模擬授業において、指導案、教材等の作成の方法などを具体的に示し、達成感を得ることのできる授業内容の工夫を行っていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。 受講動機としては「資格取得に必要である」82.8%、「必須科目である」51.7%、「関心のある内容である」13.8%であった。 また、学生の授業評価においては、知識・理解において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.4中央値5.0）と答えている。また、思考・判断において自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた(平均値4.4、中央値5.0)、自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる知識を身に付けることができた（平均値4.4中央値5.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容的妥当性 成績評価から見て知識・理解に関して、さらに基礎知識を活用し、応用問題に適應するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業以外に取り組んだこととして、「模擬授業に向けての準備」、「自主学習」、「復習」、「学習指導用要領を読んだ」、「教員採用試験の勉強をした」など授業に積極的に取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価においては、「授業で気になったところをインターネットで調べた」、「模擬授業の準備をした」、「法律についてわからないことを調べたり、模擬授業を行う際に調べ学習をした」「保健教育に関して、学校現場でどのようなことが行われているかや教採に出やすいポイントなどを勉強した。」の意見があった。今後も4年生の授業の参観を実施し、模擬授業の具体的なイメージができるように授業内容を工夫していきたい。 授業では、講義でしっかりと基礎知識を身につけ、グループワークなどを取り入れ、学校現場で授業を実践できるような力を身につけることができるように授業を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、養護教諭は、学校現場で保健教育の中心となり活躍することが求められる。基礎的な知識を定着させ、学んだ知識をさらに活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。さらに、教材開発の方法などを取り入れ、学生が保健の授業の楽しさを味わうことができ、達成感を持つことができるような授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
養護実習事前事後指導	3～4	三期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は教職課程における、養護教諭になるための学習として位置づけられている。また、受講動機としては「資格取得に必要である」100.0%、「必須科目である」36.4%、「関心のある内容である」18.2%であった。 これらのことから、養護実習に向けての準備や実習後のカンファレンスを通して、自分が目指す養護教諭像や学校現場での実践についてより具体的にイメージできるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。さらに学生が養護実習で経験する職務内容について、学校現場で実践できるように具体的な事例を示し、わかりやすく解説することを心がけた。また、学校保健、養護概説等で学んだ既習知識を活かし、健康診断実施計画案、保健だよりの作成など養護実習の事前準備として実践的な内容を取り入れ授業内容を工夫した。さらに、授業の事前準備として、classroomに事前に資料を掲載し、予習・復習に役立つようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は86.0点であった。理想的レベル（90点以上）は13名であった。 目標別の達成度は知識・理解に関しては85.0%、思考・判断85.0%、意欲・関心86.0%、技能表現80.0%であった。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.4中央値4.0）、また意欲・関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野において様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.2中央値4.0）であった。さらに、職業選択の参考になった（平均値4.5中央値5.0）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「教職課程科目」であり、養護教諭になるための学習として位置付けられている。 受講動機としては「資格取得に必要である」100.0%、「必須科目である」36.4%、「関心のある内容である」18.2%であった。 また、学生の授業評価においては、思考・判断において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.4中央値4.0）と答えている。また、関心・意欲においては自分が学ぼうとしている専門分野について、さまざまな課題を検討する力を得ることができた（平均値4.2中央値4.0）、職業選択の参考になった（平均値4.5中央値5.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て知識理解に関する達成度をさらに定着させるために、基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の学習量の評価においては、「採用試験の勉強として授業を復習した」、「実習に関して、あらかじめ地域や実習校の特徴について調べた。また実習が円滑に行われるように授業準備や予習を行うようにした。」、「養護実習を振り返り学びを深めた。」、「講義だけでは理解が追いつかないため、復習を兼ねて学習に取り組んだ。」などの意見があり、熱心に授業に取り組んでいた。講義でしっかりと基礎知識を身につけ、グループワークなどを取り入れ、学校現場で臨機応変に活躍できるように実践的な力を身につけることができるように授業内容を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は達成できたが、学校現場では、医学的知識を身につけた専門職としての活躍が期待されている。養護実習で経験する救急処置について、実践事例を通して、学んだ知識をさらに活用できるような実践力が身につくように授業内容を工夫していきたい。また、さらに学生が模擬保健室を積極的に活用し、実践力を身につけることができるように授業で活用していく予定である。授業においてもclassroomの機能を活用し、積極的に演習ができるような授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職実践演習（養護教諭）	4	後期	選択	はい	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は教職課程における、養護教諭になるための学習として位置づけられ、さらに教職実践の進化を図るための科目として位置づけられている。 受講動機としては「資格取得に必要である」100.0%、「必須科目である」41.7%、「関心のある内容である」25.0%であった。 本科目では、養護実習で学んだことを通して、自分が目指す養護教諭像や学校現場での実践についてより具体的にイメージできるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。さらに学校現場においてより実践力を身につけることができるように、保健教育における「性に関する指導」について現職養護教諭の講話を実施した。その後グループで指導案を作成し、代表者が模擬授業を実施し、実践力を身に付けることができるように授業内容を工夫した。さらに「養護教諭と多職種連携について」の講義内容を設け、グループで事例検討を行い、養護教諭の職務内容と専門性について理解が深まるように授業内容を工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は88.0点（±9.1）であった。理想的レベル（90点以上）は21名であった。 目標別の達成度は知識・理解に関しては、90.0%、思考・判断88.0%、関心・意欲87.0%、技能・表現88.0%であった。 授業では、養護実習の実践を通して個人で振り返り、個人の課題を把握しグループワークを通して課題に取り組み、学校現場での実践に生かすことができるように授業内容を工夫した。また、学校現場において対応を求められている現代的な健康課題に対応できるように、「養護教諭と多職種連携について」事例を通した授業展開を行った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.0中央値4.0）、また意欲・関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた（平均値4.0中央値4.0）、職業選択の参考になった（平均値4.1中央値4.0）であった。 今後も学生が養護教諭としての執務の具体的なイメージがよりできるように事例の見直しを行い授業内容の改善を行っていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「教職課程科目」であり、養護教諭になるための学習、教職実践の深化を図る科目として位置づけられている。 受講動機としては「資格取得に必要である」100.0%、「必須科目である」41.7%、「関心のある内容である」25.0%であった。 また、学生の授業評価においては、思考・判断において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.0中央値4.0）、意欲・関心においては自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた（平均値4.0中央値4.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容の妥当性 本科目は、教職課程の深化を図るための科目として位置付けられている。授業においては養護実習の経験を通して、学校現場で実践できる力を養成するために、講義と演習のバランスを考慮した。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価として授業の課題以外に取り組んだこととして、「紹介された参考図書を確認し学習した」、「養護教諭の職務について学習した」、「授業で取り上げられた教育課題に関する事柄や事例についてインターネットで調べた」、「授業内で興味があったことについて調べ。」など採用試験の勉強や授業に熱心に取り組んでいた。また、学生の意見として「この講義を通して、性教育の必要性、多職種連携の必要性をより強く思うようになりました。」などの意見があった。今後も学校現場で臨機応変に活躍し、実践できるような力を身につけることができるように、グループワークや発表の機会などを積極的に取り入れ、授業内容を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、教職実践の深化を図る科目である。養護教諭は学校において、医学的知識を身につけた専門職としての活躍が期待されている。子どもたちを取り巻く環境は複雑化しており、養護教諭は多職種と連携し課題を解決できるような実践力が求められている。福祉学科の特性を活かし「養護教諭と多職種連携」についての講義を通し、課題解決に向けて学んだ知識をさらに活用し実践力が身につくように授業内容を工夫していきたい。